

令和6年度 「障害者の生涯学習支援活動」に係る 文部科学大臣表彰

事例集



障害者の生涯学習を支える全国の実践を紹介



文部科学省総合教育政策局
男女共同参画共生社会学習・安全課障害者学習支援推進室

令和6年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰

事例集の発行にあたって

文部科学省では、障害のある方が生涯にわたって自らの可能性を追求し、地域の一員として豊かな人生を送ることができるよう、多様な学習活動の充実に向けた取組を進めています。この取組の一環として、平成 29 年度から、障害のある方の生涯学習を支える活動について、他の模範と認められるものに対し、その功績を称える文部科学大臣表彰を行っています。

今年度は、長年にわたる個人・団体の功績を称える「功労者表彰」について40 件、新しいチャレンジや分野を超えた連携の成果が認められた「奨励活動表彰」について8 件が表彰されました。これらの多様な活動に取り組まれてきた皆様に、心より敬意を表します。

本表彰は今回で 8 回目を迎えました。これまでの表彰件数は 478 件にのぼり、着実に全国各地の障害者の生涯学習に関する好事例を蓄積してきたところです。その一つ一つの活動が「障害の有無にかかわらず、共に学び、生きる」ことを体現したものであり、このような活動が全国に広がってきていることを大変嬉しく思います。文部科学省としては、さらなる普及に向け、民間団体や福祉関係団体等との分野を越えた連携をより一層推進してまいりたいと考えています。

今回表彰された取組を、ぜひとも障害のある御本人様、保護者や支援者の皆様、都道府県、市区町村の障害者の学習支援に関わる皆様、社会教育、特別支援教育、障害福祉に関わる皆様など、幅広い方々に知っていただきたく、ここに一冊の事例集としてまとめました。この事例集を参考に、各地で障害のある方の学びの場がより一層広がることを期待しております。

最後に、本事例集の作成にあたりまして、表彰された皆様や都道府県、市区町村、関係団体等の皆様に多大な御協力をいただきましたことを、心より感謝申し上げます。

令和6年12月

文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課

障害者学習支援推進室長 星川 正樹

目次

主な活動地域	団体名・氏名	活動内容	推薦者	主な連携先	ページ
功労者表彰					
北海道（今金町）	金子 亘喜	障がい者スポーツの普及・発展	北海道	行政（教育委員会）、北海道障がい者スポーツ協会等	1
北海道（中標津町）	中標津音訳の会ひびき	読む楽しさをみんなで味わおう！	北海道	図書館、教育委員会、社会福祉協議会等	2
青森県（青森市、八戸市、むつ市）	特定非営利活動法人シェアサルススポーツクラブ	障がい児（者）余暇スポーツの普及啓発及び障がい理解促進活動	青森県	高等学校、短期大学、特別支援学校等	3
岩手県（一関市）	一関手話サークルひろば	健聴者(聞こえる人)と聴覚障害者の相互理解・交流を深める「互いに学び合う場」を目指して	岩手県	行政、社会福祉協議会、学校、企業等	4
山形県（山形市）	山形心体表現の会 La・シヴァ	インクルーシブダンス（障がいの有無、年齢、性別、国籍すべてを含む）を通して共に生きる社会の促進・啓発活動	山形県	—	5
茨城県（土浦市）	ひまわりの会	点訳のボランティア 視覚障害者への点字による学習支援と情報保障のための活動	茨城県	土浦市、土浦市社会福祉協議会、県立点字図書館	6
茨城県（結城市）	結城ボイスフレンド	聞く方にきちんと伝わる音訳CDをお届けしたい！	茨城県	結城市社会福祉協議会	7
栃木県（那須塩原市）	太陽生命保険株式会社	太陽生命の森林（もり）「森林教室」	障害者の文化芸術活動を推進する全国ネットワーク	公益財団法人日本ダウン症協会、日本ダウン症協会栃木支部	8
埼玉県	彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク	ともに生きる力を育む福祉教育・ボランティア学習を推進	埼玉県	教育委員会、社会福祉協議会等	9
千葉県（船橋市）	NPO法人 若草の会	学校卒業後の仲間作りの場「若草の会」	千葉県	船橋市中央公民館	10
神奈川県	認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本・神奈川	知的障害のある人にスポーツを	神奈川県	一般社団法人神奈川県障がい者スポーツ協会 等	11
富山県（南砺市）	鼓友 夢光組（こゆうのぞみぐみ）	和太鼓の演奏活動を通じた地域交流の推進と余暇活動の充実	富山県	文化芸術団体、特別支援学校	12
石川県（金沢市）	春風クラブ	パラ陸上競技愛好クラブ 春風クラブ	石川県	かなざわ総合スポーツクラブ STARTUS（スタータス）	13
福井県（福井市）	NPO法人ブレイヴ・ドルフィンズ	NPO法人ブレイヴ・ドルフィンズ福井障がい者水泳教室	福井県	福井県しあわせスポーツ協会	14
福井県（坂井市）	ビッグドルフィンズ	ソフトボールで未知の世界へ！ All Together Now!!	福井県	あわら市ソフトボール協会 日本知的障がい者ソフトボール連盟等	15
山梨県（都留市）	都留文科大学地域交流研究センター 地域インクルーシブ教育分野	大学を拠点にしたインクルーシブな地域づくり	公立大学法人 都留文科大学	障害福祉事業所、スポーツ団体等	16
愛知県（刈谷市）	愛知教育大学動作法月例訓練会	動作法月例会の継続で普及	国立大学法人 愛知教育大学	愛知心理療育親の会	17
愛知県（安城市）	音訳ボランティア「安城ひびきの会」	視覚障がいがある人に向けた音訳活動	愛知県	（福）安城市社会福祉協議会	18
大阪府（箕面市）	長谷田 未佳	音楽を通して行うリハビリテーション	大阪府	—	19
大阪府（箕面市）	箕面市卓球協会	小さな白球を通して障がい者スポーツの振興	大阪府	箕面市卓球協会、大阪府立稲スポーツセンター	20

主な活動地域	団体名・氏名	活動内容	推薦者	主な連携先	ページ
兵庫県（豊岡市）	豊岡市くすの木学校運営委員会	豊岡市くすの木学校	兵庫県	兵庫県豊岡市教育委員会 社会教育課	21
奈良県（吉野郡十津川村）	社会福祉法人こだまの会	障害のある方の居場所「ほっと十津川」	奈良県	障害福祉課、福祉事務所、住民保健課	22
和歌山県（上富田町）	東光 昭勇	障害のあるこどもの乗馬体験及びふれあい体験活動	和歌山県	和歌山県教育委員会	23
岡山県	大学コンソーシアム岡山 障がい学生支援委員会	大学間連携による障害学生支援の普及・啓発活動	岡山県	岡山県	24
広島県（大竹市）	あけぼの音訳グループ	文字を声に！視覚障がい者に情報を！！	広島県	社会福祉協議会、特別支援学校	25
広島県（広島市）	公益財団法人 広島県セーリング連盟	「誰もが乗れる」ハンザヨットを通して 体験会の開催、アジア初のワールド大会の招致等	広島県	市内特別支援学校、心身障害者福祉センター、障害福祉事業所等	26
山口県	山口県 F I D バスケットボール連盟	FIDバスケットボール競技の周知・普及と強化をとおして 共生社会の実現へ	山口県	スポーツ支援団体・特別支援学校等	27
徳島県（徳島市）	加藤 幸代	バラスポーツの普及促進 ～共生社会の実現に向けて～	徳島県	徳島県バラスポーツ協会等	28
徳島県（徳島市）	徳島感覚運動指導研究会 「ムーブメント教室」	子どもたちと共に学ぶ「ムーブメント教室」	徳島県	特別支援学校、小学校、大学、児童福祉施設等	29
香川県（高松市・丸亀市・綾川町）	塩田 友亮	生きがいに寄り添う陸上競技指導 ～生涯スポーツから競技スポーツまで～	国立大学法人 香川大学	特別支援学校	30
長崎県（諫早市）	諫早コスモス音声訳の会	学びと交流を大切によりよい音訳を （諫早コスモス音声訳の会）	長崎県	諫早市立諫早図書館	31
熊本県（荒尾市）	朗読サークルあらお	声で届ける情報～あなたの光になると信じて～	熊本県	荒尾市社会福祉協議会、荒尾市立図書館等	32
大分県（宇佐市）	宇佐市自立支援協議会	ピアサポート事業を活用した余暇活動支援	大分県	宇佐市福祉課	33
大分県（臼杵市）	社会福祉法人みずほ厚生センター さぼとセンター風車	チャレンジ教室	大分県	臼杵市役所、臼杵市障害者交流センター-すくらむ	34
宮崎県（宮崎市）	宮崎手話サークル「いもっこ」	聴覚障害者と共に暮らしやすい社会をめざして	宮崎県	行政（保健・福祉部局）、社会教育関係団体等	35
宮崎県	MIYAZAKI☆PHOENIXERS バレーボールクラブ （みやざきSUPER☆PHOENIX VC(男)&宮崎たいよう♡ふえにつくVC(女)）	バレーボールを通じた知的障害者への支援	宮崎県	高等学校、特別支援学校、企業等	36
鹿児島県（鹿児島市）	鹿児島手話サークル太陽	手話サークル活動	鹿児島県	鹿児島市聴覚障害者協会等	37
東京都・宮城県・仙台市	特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン	自分をひらき、他者とともにある場 「オープンアトリエ」と「生涯学習・アカデミア」	仙台市	行政、福祉施設、企業、NPO/市民団体等	38
岡山県（岡山市）	岡山市立図書館朗読奉仕の会	目の代わりとなることを目指して	岡山市	岡山市立図書館	39
全国（宮城県）	宮澤 典子	つながる・きわめる・はたらきかける！ 宮城県内の手話通訳者の養成・手話普及活動を先導	宮城県	宮城県手話通訳問題研究会、宮城県聴覚障害者協会等	40

主な活動地域	団体名・氏名	活動内容	推薦者	主な連携先	ページ
奨励活動表彰					
岩手県(岩泉町)	特定非営利活動法人クチエカ	みんなの居場所 コミュcafé クチエカ	岩手県	社会福祉法人・社会教育関係団体等	41
宮城県(塩竈市)	塩竈市杉村惇美術館	塩竈市杉村惇美術館の市民共働プログラム	宮城県	塩竈市杉村惇美術館、塩竈市生涯学習課	42
秋田県(湯沢市・羽後町・東成瀬村)	地域生活支援拠点 愛光園	利用者と住民がともに作り上げる生涯学習講座「おらほの学び場」	秋田県	学校、行政、地元企業・団体等	43
愛知県(一宮市)	ありんこ	障害があってもあきらめないで「障害者パソコン勉強会」	愛知県	障害福祉課、高年福祉課、社会福祉協議会等	44
兵庫県(加古川市)	笑舞～東はりまチャンゴサークル	楽しみながら社会性を育むチャンゴ教室(韓国伝統打楽器演奏サークル)	兵庫県	加古川市別府公民館	45
鹿児島県(肝付町)	バラスポおおすみ	大隅地区 障がい児・者スポーツの集い	鹿児島県	肝付町社会福祉協議会等	46
全国	一般社団法人日本障がい者乗馬協会	障がい者の乗馬を介した自己実現・障がい者乗馬の普及	公益財団法人日本バラスポーツ協会	日本バラスポーツ協会、日本中央競馬会、日本馬術連盟	47
全国	特定非営利活動法人日本パラ射撃連盟	幅広い障がいの方ができる射撃競技	公益財団法人日本バラスポーツ協会	日本ライフル射撃協会	48

障がい者スポーツの普及・発展

功労者

■ 団体名・氏名

金子 巨喜

■ 基本データ

継続年数	17年間
主な連携先	行政（教育委員会）、北海道障がい者スポーツ協会等
団体の規模等	—

対象	知的障害
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

スポーツに親しむ機会が少ない障害者のため、障害のある方への指導や大会の運営など、障がい者スポーツの普及・発展に向けた活動を行っています。

また、障害のない地域住民に対する、障がい者スポーツの認知度を高める活動も積極的に行っています。

■ 活動内容

道内外で開催される障がい者スポーツ大会に運営と競技の両面から携わっています。加えて、障害のある方々に対して直接、スポーツ指導や大会参加に向けたサポートも行っています。

初心者から全国レベルまで幅広い競技レベルの障害者を支えることをとおして、障がい者スポーツの普及や認知度の向上を図るとともに、魅力や楽しさを年代や障害の有無にかかわらず広めています。

また、町の教育委員会と連携し、パラリンピアン講演や車いすラグビー体験会の開催の一翼を担うほか、道内の大学と連携し、中学生期のパラスポーツ体験を行うなど、インクルーシブ教育の視点を大切に活動も行っています。

そのほか、外出に困難を伴う方々の活動の幅を広げられるよう、積極的に地域活動にも取り組んでおり、地域住民が日常的にスポーツに親しむ機会の拡充にも貢献しています。



写真1 第51回北海道障がい者スポーツ大会

■ 活動の経緯・体制

特別支援学校教諭として、生徒の余暇活動の拡充、体力向上のため、2007年から放課後や週末に陸上やクロスカントリースキー等の指導を始めました。その後、日本パラスポーツ協会の資格を取得し、各種大会に関わることで、障がい者スポーツの魅力に感銘を受け、自己研鑽を積み重ね、専門性を向上させていきました。現在では、在住地域のみならず、北海道全域や全国に活動の幅を広げています。

■ 活動の工夫・成果

町の教育委員会やスポーツ推進委員が運営するパラスポーツ体験会や交流会を運営する際に、参加者がパラスポーツの魅力を感じられるよう、実施種目やルール工夫、参加者の体調や気持ちに配慮した交流を行い、参加者の意識や行動の変化につなげています。

また、長年の活動で得た経験やノウハウ等を日常の指導や大会の運営の機会をとおして若手に伝えることで、新たな指導員の育成、拡大につなげています。



写真2 町民向け障がい者スポーツ普及活動「ポッチャ教室」

読む楽しさをみんなで味わおう！

功労者

■ 団体名・氏名

中標津音訳の会ひびき

■ 基本データ

継続年数	21年間
主な連携先	図書館、教育委員会、社会福祉協議会等
団体の規模等	8名

対象	視覚障害
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

主に視覚障害のある方を対象として、町の広報紙や新聞記事等をCD・カセットテープに録音し、届けるボランティア活動を行っています。また、地元のラジオ番組に出演し、童話・小説の朗読及び高齢者等を対象とした一般向けの朗読会も行っています。

■ 活動内容

中標津音訳の会ひびきは、設立から21年以上、永年にわたり音訳のボランティア活動を続けてきました。主に、毎週水曜日に中標津町総合福祉センター「プラット」で活動を行っています。

障害者へ向けた活動としては、主に毎月発行される町の広報紙や1週間分の新聞記事の音訳、音訳図書の作成等を行っています。特に、音訳図書については、リスナー（視覚障害者）からのリクエストに応じて、これまで70冊以上の音訳図書を作成してきました。

活動は、地元FMラジオ局での童話や小説の朗読など、一般の町民向けの活動にまで広がっているほか、図書館や社会福祉協議会等の関係団体が主催している事業やイベントにも積極的に参加するなど、音訳の活動を通じて「読む楽しさ」を障害の有無にかかわらず全ての町民に提供しています。ラジオ等の活動によって広く町民に活動を知ってもらい、新たな会員の増加を図りながら、継続した音訳活動によって地域への貢献を目指しています。



写真1 録音中の様子

■ 活動の経緯・体制

社会福祉協議会で行われた音訳者養成講座の受講者の「障害のある方々の助けになりたい」という思いから、平成15年4月に町内で初めての音訳団体として設立されました。現在は、会員同士での協力や周囲の支援のもと、音訳や朗読活動を行っており、会員の音訳の技術向上のため、定期的な研修活動のほか、朗読等に関する研修会への参加や近隣市町村の音訳の会の方を講師に招いた学習会の開催などを行っています。

■ 活動の工夫・成果

録音をする際は、会員同士でアクセントや読む速さを確認し合いながら、繰り返し丁寧に音訳しています。

また、リスナー（視覚障害者）との交流会を開催して直接要望を伺いながら、音訳内容の改善やニーズの把握に努めており、ゴミの収集日などの生活に役立つ情報や地域性のある身近な話題の提供は、リスナーの生活や地域における情報格差の解消の一助となっています。



写真2 編集作業中の様子

障がい児（者）余暇スポーツの普及啓発及び 障がい理解促進活動

功労者

■ 団体名・氏名

特定非営利活動法人
レアリサルスポーツクラブ

■ URL

<https://www.realizar.club/>

■ 基本データ

継続年数	14年間
主な連携先	高等学校、短期大学、特別支援学校等
団体の規模等	会員約70名

対象 すべて（現在は主に知的障害、自閉スペクトラム症、注意欠陥多動症、ダウン症等）

活動分野 学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

「活動を通じて、障がい児（者）が自分らしい生活を送るために楽しみを見つけ、楽しみを通して多くの人とつながり、喜びを分かち合いながら成長できる社会づくりに貢献します」という理念の下、障がい児（者）サッカーの普及育成、指導者・ボランティアスタッフの育成や障がい児(者)サッカー大会等の開催を行っている。

■ 活動内容

青森市を拠点に、障がい児（者）を対象としたサッカークラブ運営を中心に、県内各地でのサッカー教室、指導者派遣事業、一人でも家族でもチームでも参加できるサッカー大会「青森県障がい児（者）サッカー大会」にっこにこフェスタあおもり」などを実施しており、障がい児（者）が、安心できる居場所の中で自分らしく取り組める余暇スポーツの場としての役割を大切に活動を継続している。主な活動としては、「一人一人の楽しみを大切にするサッカースクール」、「仲間との楽しみの共有を大切にするサッカークラブ」の二つのカテゴリーをメインに活動している。また、2022年から障がい児通所支援事業に取り組み、児童の自己理解を促し自己決定を支えることで、その後の社会生活における「自分らしさ」を大切にした支援を提供している。



写真1 スクール活動 ミニゲーム中の一場面

■ 活動の経緯・体制

青森県内の障がい児（者）余暇スポーツ活動の場の構築や居場所づくりを推進するため、2009年に「REALIZAR CLUB DE FUTBOL（レアリサルクラブデフトボル）」を設立。その後2011年にNPO法人格を取得し、特定非営利活動法人レアリサルスポーツクラブとして活動を続けてきた。事務局兼メインコーチ1名と地域の大学生や社会人ボランティアを中心に活動している。

■ 活動の工夫・成果

不確定要素に強い不安感を覚え、見通しがあることで安心して活動できる参加者が多いことから、天候による急な中止を避けるために体育館での活動をメインに実施している。指導場面においては、楽しく自らやりたくなる運動の提供を心掛けている。個人の理解度や情報処理の偏り（聴覚、視覚（字、絵、現物））に応じて内容伝達方法を変えたり、使用するスポーツ用具の色や形状を変える等の工夫を行っている。



写真2 にっこにこフェスタあおもりの様子

岩手県（一関市）

健聴者(聞こえる人)と聴覚障害者の相互理解・交流を深める

「互いに学び合う場」を目指して

功労者

■ 団体名・氏名

一関手話サークルひろば

■ URL

<https://www.center-i.org>

■ 基本データ

継続年数	51年間
主な連携先	行政、社会福祉協議会、学校、企業等
団体の規模等	37名

対象	聴覚障害
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

一関手話サークルひろばでは、手話の普及、健聴者と聴覚障害者の相互理解・交流を深めることを目的に健聴者とうろう者が一緒に活動しています。「簡単な手話を覚えるのと一緒に『見えない障害』と呼ばれ誤解されやすい聴覚障害者について、地域の方達にまずは少しでも知って理解してもらえたら」という願いのもと、地元の学校や婦人会、企業などで手話講習会を実施しています。

■ 活動内容

ひろばでは手話の普及、健聴者（聞こえる人）と聴覚障害者の相互理解・交流を深めることを目的に、健聴者とうろう者が一緒に活動しています。健聴者だけの手話サークルもあるなか、ろう者と一緒に学べる環境がこのサークルにはあります。より高い技術習得のため、手話通訳士の資格取得を目指す会員もいます。

「岩手県聴覚障害者福祉大会」「東北ろうあ者大会」などの、岩手県や東北単位のイベントへの参加機会もありますが、根底にあるのが「地域に根差した活動を」という想いで、聴力に障害がある方（ろう者）から、その方々の言語である手話を学び、交流しながら共に活動し、地域の方々への理解を広めている団体です。「手話がもっと、日常的なものになってほしい」という会員の願いのもと、手話の技術を学びながら「人と通じ合える喜び」が満ち溢れ、静けさの中に、手話を通してほっこり温かい気持ちに包まれるようなサークルです。



写真1 クリスマス会の様子

■ 活動の経緯・体制

聴覚障害者とうまく意思疎通できなかった経験から、小野寺博人さん（初代会長）ら有志が「一関手話サークルひろば（以下ひろば）」を設立しました。

現在ひろばには、初級者から手話通訳士まで20代～70代の者が在籍しており、毎週火曜日の定例手話講習会は19時～21時に一関総合福祉センターにて開催（見学歓迎）しています。長年の地道な活動が認められ、緑綬褒章を受賞した経緯があります。

■ 活動の工夫・成果

ひろばでは手話の普及を図るため、健聴者（聞こえる人）と聴覚障害者の相互理解・交流を深めることを目的に、「互いに学び合う場」という考えのもと、健聴者とうろう者が一緒に活動を行っています。また会員の親睦と交流を深めるために行っているお花見会やクリスマス会は、一関市内の手話4団体合同で行っており、手話に関わる仲間として団体の枠を超えて、一緒に行事や会議を行っているのも大きな特徴となっています。



写真2 一関市障がい者福祉まつりでのミニ手話講習会の様子

インクルーシブダンス（障がいの有無、年齢、性別、国籍すべてを含む）を通して共に生きる社会の促進・啓発活動


 功労者

■ 団体名・氏名

山形心体表現の会 La・シヴァ

■ 基本データ

継続年数	18年間
主な連携先	—
団体の規模等	会員17名

対象 すべて

活動分野 学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

障がいの有無にかかわらず即興ダンスを通し、コミュニケーションのきっかけをつくり、多様性を尊重した社会を目指して、心体表現活動の普及・支援に取り組んでいる。

■ 活動内容

2006年4月に山形心体表現の会を発足しました。インクルーシブダンスパフォーマンスとして（障がいの有無、年齢、性別、国籍をすべて含むという意味）一人ひとりがそこに在ることを大切にしながら活動を行っています。活動は主に①会の会員との定期的なワークショップ②各種イベントでのパフォーマンス③インクルーシブダンス公演の企画上演④指導スタッフによる外部団体に向けてのワークショップを行ってきました。2011年8月に山形県で初のインクルーシブダンス公演「sou～新しい瞬間（とき）を刻んで～」を上演し、その後2017年には第2回公演「その先の向こうへ」、翌年には仙台での公演を行いました。

現在は定期的なワークショップをはじめ、各地域の育成会、福祉事業所、特別支援学校からの依頼を受けてワークショップを行い、表現すること、ここに在るということを体感していただきながら、共に生きる社会の実現に向けて活動しています。



写真1 ワークショップでの様子

■ 活動の経緯・体制

2006年4月の発足。発足当時は、指導スタッフ2名のほか、3名の事務局スタッフでの体制で活動を開始しました。当時約15名ほどの会員でスタートし、月に1回程度ワークショップを中心に活動を行ってきました。2011年に山形県では初のインクルーシブダンス公演を上演し、新たに会員が増えるほか、県内各地でのワークショップやイベントの出演など多くの依頼があり活動を行ってきました。

■ 活動の工夫・成果

私たちの行っているダンスは、決まった形はなく、その場で感じたことを表現するもののため、誰もができるダンスであることを伝えていきます。また、ダンスという活動を通して、表現することに、障がいの有無や、年齢、性別、国籍などは、何も問題ではないということも多くの方に伝えていくことを大切に活動してきました。また、福祉団体や特別支援学校、地域の活動団体からの依頼も多く活動が広がっていることを実感しています。



写真2 第2回公演 その先の向こうへより1場面

点訳のボランティア

視覚障害者への点字による学習支援と情報保障のための活動

功労者

■ 団体名・氏名

ひまわりの会

■ URL

http://www.doshakyo.or.jp/05_08.html

■ 基本データ

継続年数	37年間
主な連携先	土浦市、土浦市社会福祉協議会、県立点字図書館
団体の規模等	22名

対象	視覚障害
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

視覚に障害のある方のために、図書や広報紙等の情報を点字にして伝えるボランティア活動をしています。また、交流会、暑中見舞いや年賀状の作成を通して、利用者とボランティアの交流を図っています。

■ 活動内容

点字図書の制作を継続的に実施しています。土浦市の広報紙や立候補者名簿、市内を運行するバスの時刻表、はり・きゅう・マッサージ施術補助券等を点訳しており、視覚障害者への情報保障をサポートしています。

かすみがうらマラソン兼国際ブラインドマラソンでは記録証・賞状の点訳を行っており、地域の事業にも貢献しています。

また、交流会の実施や、暑中見舞いや年賀状を通して、視覚障害者との交流を図っています。

そのほか、社会福祉協議会や共同募金会などと連携し、地域のボランティア活動推進や地域福祉の増進のために活動しています。

点字ボランティア養成講座の講師や小中学生に対する点字体験を通して、地域住民に視覚障害への理解を促進し、点字の普及に努めています。



写真1 市内の小学校で点字体験を実施

■ 活動の経緯・体制

昭和56年に、社会福祉協議会で点字講座が開講されました。当初は、県立点字図書館から講師を派遣していただきました。指導を受けた受講生が、自主的に地域の視覚障害者のためにボランティア活動を開始し、昭和62年5月に会を発足させました。以降、点訳の実施、点字の普及活動に努め、視覚障害者に対する理解を深めるために活動しています。

■ 活動の工夫・成果

毎年、社会福祉協議会で開催する点訳ボランティア養成講座に講師を派遣し、後進の育成に努めています。

県立点字図書館の図書点訳を行い、勉強会での意見交換等を通し、会員相互の点訳技術を向上させています。



写真2 かすみがうらマラソンでの点訳

聞く方にきちんと伝わる音訳CDをお届けしたい！

功労者

■ 団体名・氏名

結城ボイスフレンド

■ 基本データ

継続年数	29年間
主な連携先	結城市社会福祉協議会
団体の規模等	33名

対象

視覚障害

活動分野 学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

視覚障がい者に、「市広報紙」（月3回）、「ゆうき市議会だより」（年5回）、「結城市民文化センター広報紙」（月1回）、「社会福祉協議会広報紙」（年4回）等のデージー図書CDを、年間一人当たり58枚郵送しています。

年1回視覚障がい者との交流会を行い意見等を活動に活かしています。

■ 活動内容

「結城ボイスフレンド」は平成7年に視覚障がい者支援のために設立した団体です。広報紙、選挙公報音訳等を通し、視覚障がい者の日常生活に欠かせない情報提供を行っています。他に個人の必要とする書籍、小冊子の音訳も行っております。

交流会を年1回行い、意見をもとに音訳する広報紙を増やす等、利用されている方の意見を反映しながら活動ができるように心がけています。

啓発活動、技術向上を目的として班別の「公開朗読発表会」を年8回行っており、今年は市民文化センターでこれまでの活動の集大成として記念事業である「朗読発表会」を行います。

研修活動として、他市の朗読会の見学を行う等、日々、研鑽を重ねています。



写真1 音訳CDを作成している様子

■ 活動の経緯・体制

平成7年4月1日、視覚障がい者の情報提供を目的に社会福祉協議会が主催した朗読奉仕員養成講座の修了生が中心となり発足しました。録音は、石島建設プラネットホール・ゆうき図書館の対面朗読室を借用しています。

会長1名、副会長1名、名誉会長1名、会計1名の体制で運営し、33名が8班体制で、年間計画に沿ってデジタル録音したCDを視覚障がい者宅に郵送しています。

■ 活動の工夫・成果

CD作成の際、不慣れな班の手伝いをする「収録の助っ人」制度があり、お互いに学びながらCD作成をしています。郵送CDに不備がないように、すべてのCDを試し聞きしてから郵送し利用される方が聞きやすいCDの作成を行っています。

平成29年から年1回、利用されている方と交流をはかってきました。今年は、市民文化センターでの発表会に招待しその後交流会を行う予定です。



写真2 研修の様子

太陽生命の森林（もり）「森林教室」

功労者

■ 団体名・氏名

太陽生命保険株式会社

■ URL

http://www.taivo-seimei.co.jp/company/activity/download/csr/2024/CSR2024_09.pdf

■ 基本データ

継続年数	12年間
主な連携先	公益財団法人日本ダウン症協会、日本ダウン症協会栃木支部
団体の規模等	11,699名（2024年3月末）

対象

知的障害

活動分野

学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

同社が栃木県那須塩原市の国有林を借り受け、森林整備活動を続けている「太陽生命の森林（もり）」にて、地元栃木のダウン症のあるお子さんとその家族を招き、毎年森林教室を開催。同社社員のボランティアも多数参加し、広場や簡易トイレ等も整え、野点（のだて）、ヨガ教室、工作教室、歌とダンス、音楽鑑賞など多彩なプログラムを提供し、新緑の森での1日を楽しむ。

■ 活動内容

「太陽生命の森林（もり）」は2006年に同社が栃木県那須塩原市の国有林4.81ヘクタールを借り受け、社員ボランティアによる健康な樹木を育てるための間伐や林道整備などの森林整備活動を行ってきたが、2012年より、この森でダウン症のある子とその家族（JDS栃木支部）を招き、毎年5月に森林教室を開催している。新型コロナウイルス感染拡大により2020～2022年の3年間はお休みを余儀なくされたが、2023年、4年ぶりの教室再開。2024年も4月に58名の社員が間伐、広場・遊歩道整備などの準備作業を行い、5月25日にダウン症のある人とそのご家族、ボランティア50名で森林教室を開催した。



写真1 2024年の教室の風景。皆で歌と振り付けの練習

■ 活動の経緯・体制

日本ダウン症協会栃木支部からは毎年20～30名のダウン症のある子とその家族が参加している。活動を支えるため、太陽生命株式会社の社員20～30名がボランティアとして支援。休日を使って事前の森の整備、各種活動の事前準備を行い、当日はそれぞれの家族にバディとして付き添いながら、活動の手助けをしている。近年は、公益財団法人日本ダウン症協会（JDS）のメンバーも東京から参加し、会報やSNSで活動報告を行っている。

■ 活動の工夫・成果

1. ひらがなで名前を書いた名札を下げてもらう 2. ルビを振った歌詞カードや、イラストによる説明の活用 3. 子供たちの一人一人に社員ボランティアがそれぞれバディとして、活動を手助けなどの工夫をしている。ダウン症のある子たちが新緑の森でさまざまな学習体験を得られるとともに、ボランティアの人たちも、ダウン症への理解を深め、自然な形で、彼らの応援団、「サポーター」となっていく効果が生まれている。



写真2 2024年の教室から。全員で記念撮影

ともに生きる力を育む福祉教育・ボランティア学習を推進

功労者

■ 団体名・氏名

彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員
ネットワーク

■ URL

<http://attaka2018.starfree.jp/>

■ 基本データ

継続年数	23年間
主な連携先	教育委員会、社会福祉協議会等
団体の規模等	会員約70名

対象 すべて

活動分野 学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

市町村社会福祉協議会を通じて小中学校等で行われるこどもへの「ふくし」の学びへの参画をはじめ、県内で福祉・障害理解を目指して研修や気軽に参加できるカフェを開催しています。障害当事者の社会参加の場を広げ、「共に生きる」ノーマライゼーション社会の醸成を図る活動をしています。

■ 活動内容

彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワークは、埼玉県社協主催の研修修了生の有志で設立され、誰もが住みやすい社会づくりを目標に活動しています。

私たちは、誰もが住みやすい社会づくりには、福祉制度の充実とともに、住民一人ひとりの優しさや支え合いが必要だと考えています。そのため、地域へ出かけ、「ふくし=ふだんの 暮らしの しあわせ」の大切さを伝えようとしています。特に市町村社協を通じ小中学生に「ふくし」を伝える機会をいただくことも多く、私たちのやりがいにもつながっています。

「ふくし」を伝えるためには、会員の学習と研鑽は欠かせません。定期的に学習会を開催しています。また、誰でも参加できる研修やセミナーを実施、コロナ禍以降はオンラインを活用した気軽に参加できるカフェを年数回開催しています。ここでは、様々な生きづらさを知り、理解することで自分を大切にすることを学んでいます。



写真1 学民協働プロジェクトin深谷市南中学校

■ 活動の経緯・体制

2000年9月に始まった埼玉県社協主催「埼玉県福祉教育・ボランティア学習推進員養成研修」第1期・第2期修了生の有志により2001年10月に設立されました。地域での「福祉」を身近なもの、幅広いものととらえ、効果的な福祉教育を展開していくために会員・関係者が協力して実践しています。会員は、県内各地の様々な障害当事者、地域活動者、社協職員、教員などで、年数回の運営会議を実施し、会報を随時発行しています。

■ 活動の工夫・成果

様々な障害当事者が会員のため、情報取得の方法はご本人の希望を確認しながら、メールを活用し情報共有しています。

障害当事者それぞれが独自のプログラムをもち、授業や研修で真の障害理解を進めています。私たちの活動により障害への理解が進み、「障害者等用駐車スペースに必要な人が車を停めないようになった」「白杖を持って街を歩くと声をかけてくれる」との声が届きます。



写真2 まなびばしゃべりばカフェ「夏カフェ」

学校卒業後の仲間作りの場「若草の会」

功労者

■ 団体名・氏名

NPO法人 若草の会

■ URL

<https://wakakusanokai.or.jp/>

■ 基本データ

継続年数	47年間
主な連携先	船橋市中央公民館
団体の規模等	120名

対象 知的障害、自閉症、情緒障害など

活動分野 学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

学校卒業後の仲間作りの場として1977年から活動しています。4月の総会で年間計画を決め、カラオケやスポーツ、ハイキングや旅行等様々な活動を行っています。会員は選挙で会長や役員を選び、役員が中心となって、会員をまとめたり、会の進行を行ったりしています。また、有志でソフトボールのチームをつくり、練習して大会に参加しています。

■ 活動内容

2024年現在18～70歳の会員は、毎月のニュースを見て、それぞれ興味あるものに参加しています。4月は新入会員歓迎会、5月カラオケ大会、6月スポーツ等々なるべく会員が見通しを持って参加できるよう大きな流れはあまり変えずに行っています。一方マンネリにならないよう、取り組み方を工夫したり、状況に応じて活動に変化を持たせたりしています。今年7月は猛暑の懸念から屋外での活動を屋内の夏祭りに変更して楽しみました。8月の一泊旅行には70名程度の会員が参加しました。電車を乗り継いで目的地まで行くのですが、班ごとの行動では、役員が中心となりスムーズな移動ができました。夜の班対抗カラオケ大会では班のみんなで歌える歌を相談したり、マイクを順番に回したりして楽しみました。9月の趣味講座は、卓球ダンス・調理・英語・クラフト製作からやりたいものを選んで、2つを体験しました。定例会は月一回日曜日です。毎月80名(スタッフ等20名、会員60名)程度の参加があります。



写真1

一泊旅行（集合写真）

■ 活動の経緯・体制

1977年、中学校卒業時に就労していた船橋市内の特殊学級(現特別支援学級)卒業生が、元担任に「卒業後も仲間とともに勉強したい」と相談したことから、会の活動が始まりました。その後、船橋市中央公民館の主催事業となり、会場の確保や毎月のニュースの発送等を担当が担っています。スタッフは元障害児教育に携わった教員を中心に20名程度です。会員もスタッフも「さん」で呼び合うようにしています。

■ 活動の工夫・成果

毎年、市内特別支援学校卒業生に会の案内をしています。年に2回家族の会を行って、家族同士のつながりをつくったり、家族からの相談にのったりしています。また会員からの相談にもなっています。スタッフは担当月の実施計画を作成します。各回終了後話し合い、反省に基づき活動の改善を図っています。会員の情報交換も行い、スタッフ間の共通理解に努めています。



写真2

ソフトボール（練習試合）

知的障害のある人にスポーツを

功労者

■ 団体名・氏名

認定NPO法人スペシャルオリンピックス日
本・神奈川

■ URL

<https://www.son-kanagawa.com>

■ 基本データ

継続年数	29年間
主な連携先	一般社団法人神奈川県障がい者スポーツ協会等
団体の規模等	1,742名

対象	知的障害
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及活動 その他

活動の概要

神奈川県下のスポーツ好きの知的障害のある人たちが、一人でも多くこの活動に参加することにより、社会参加の機会を得てその方らしく成長し、あるがままに受け入れられ、また、認められるインクルーシブな社会で生活できることを目指して活動しています。

■ 活動内容

私たち認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本・神奈川(以下、SON神奈川)は、知的障害のある人たち(以下、アスリート)に、年間を通じてオリンピック競技種目に準じた様々なスポーツトレーニングと競技の場所を神奈川県内で提供している国際的なスポーツ組織です。1962年に故ケネディ元大統領の妹ユニス・ケネディ・シュライバー夫人が自宅の庭を開放してデイキャンプを行ったのが始まりです。

SON神奈川は1995年に設立され、29年間活動を続けています。スペシャルオリンピックスは非営利活動で、運営は企業・団体・個人からの善意の寄付とボランティアによって行われています。アスリートの健康を増進し、自立と社会参加の促進を図ることを目的に活動を行っています。また、教育・文化プログラム及びレクリエーション活動や地域社会における知的障害理解促進を図る活動を通じ、多様な人々が互いに尊重しあい共に生きていく社会の実現に寄与する事を目的としています。



写真1 各競技アスリートとボランティアの集合写真

■ 活動の経緯・体制

知的障害者とその家族や一般のボランティア様の協力の下に、活動を始めました。現在は、15競技のスポーツトレーニングを神奈川県下36会場で開催しています。現在は、理事13名、事務局4名、会員1,738名(知的障害者446名、家族会員915名、ボランティア会員377名)となっており、1競技1回当たりの参加者は15名程度で、大学の施設、特別支援学校の体育館や公共施設、YMCAの施設等で月1~2回活動しています。

■ 活動の工夫・成果

指導者は、認定コーチと呼ばれ、スペシャルオリンピックス日本の主催する講習会や実技講習で指導資格を取得した者が指導を行います。ボランティアスタッフの活動改善を図っているほか、個人の能力に合わせた指導方法を取り入れて、各人が積極的に参加できる環境を整え、レベルアップを図れるように努力をしています。

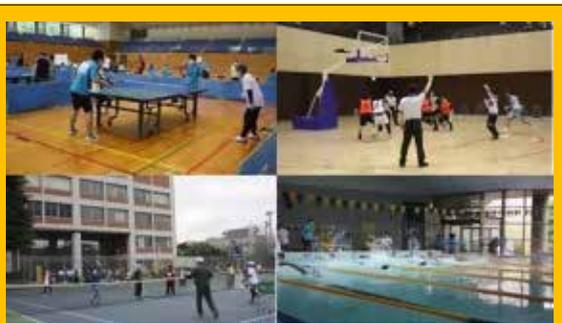


写真2 各競技の練習風景

和太鼓の演奏活動を通じた地域交流の推進と余暇活動の充実



■ 団体名・氏名

鼓友 夢光組（こゆう のぞみぐみ）

■ 基本データ

継続年数	21年間
主な連携先	文化芸術団体、特別支援学校
団体の規模等	25名

対象	知的障害、自閉症
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

地域の祭りやイベントでの和太鼓演奏、日本太鼓全国障害者大会への出場を目指して、仲間とのふれあいと和太鼓演奏の楽しさを大切にしながら活動しています。

■ 活動内容

地域の祭りやイベントへの出演、全国大会への出場等、21年間にわたって県内外での和太鼓の演奏活動を通して地域交流を推進し、余暇活動の充実を図っています。

所属メンバーの学校卒業後の社会での活躍の場を創出し続け、目標を持って充実した社会生活を送ることができるように活動を継続しています。また、発足以来、「仲よく、明るく、笑顔のあるチーム」を合い言葉に活動を続け、メンバー、保護者、地域の方々など、関係する一人一人のウェルビーイングを高める活動を展開しています。

地域の祭りやイベントでの和太鼓演奏に多数出演してきました。コロナ禍により、地域の祭りやイベント、全国大会への出場を取りやめて練習を中心とした活動にしていたのですが、今年度は、5年ぶりに日本太鼓全国障害者大会奈良大会に出場しました。今後も県内外の活動や大会に積極的に参加していきたいと思えます。



写真1 練習風景（富山県立となみ総合支援学校体育館）

■ 活動の経緯・体制

2003年に富山県立となみ養護学校和太鼓クラブ（現富山県立となみ総合支援学校和太鼓部）出身者とその保護者で発足しました。以来、21年間にわたって南砺市、砺波市、小矢部市、高岡市在住の卒業生と保護者で活動を続け、地域の和太鼓保存会から講師を招いて練習に取り組み、和太鼓演奏に磨きをかけています。月1回、土曜日に練習しています。

■ 活動の工夫・成果

チームの構成にメンバーの保護者が加わって、支援が必要な際に周囲との橋渡し役になっています。また、毎年、卒業生及び保護者をメンバーに加える持続的な取組を続けています。地域の祭りやイベントでは、地域やイベントのボランティアの支援を受けて活動しています。
 <主な活動実績> 第8～21回・26回日本太鼓全国障害者大会出場（2006～2019・2024年）、日中障害者芸術展開会式出演（中国・北京 2007.7.26）



写真2 2024日本太鼓全国障害者大会にて

パラ陸上競技愛好クラブ 春風クラブ



■ 団体名・氏名

春風クラブ

■ URL

http://kanazawa-ssc.jp/archives/class_detail/103

■ 基本データ

継続年数	33年間
主な連携先	かなざわ総合スポーツクラブSTARTUS（スタータス）
団体の規模等	50名

対象 すべて

活動分野 学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

年齢、性別、障害の有無を問わず、陸上競技を生涯にわたって楽しむために、養護学校、特殊学級（当時；現特別支援学校・学級）の在校生・卒業生を中心に結成されました。NPO法人かなざわ総合スポーツクラブに加入し、週1～5日の（各選手ごとに異なる）の定期練習の他、一般競技大会やパラ陸上競技大会に出場しています。

■ 活動内容

障害がある人が特に学校を卒業した後、日常的に体を動かしたりスポーツを楽しむ機会のために1991年にスタートしました。現在、毎週水、金、18:30～20:00の90分間、年間を通じて金沢市営陸上競技場で教室を展開しています。障害の種類や軽重を問わない12～55歳の40名程（特別支援学校・学級生または一般高校卒業生、一般）が、3～6名の有資格者指導者のもとで、ウォーミングアップ、補強練習、種目に応じた専門練習などを行い、運動習慣づくり、健康づくり、競技大会出場、記録の向上などの各自の目標に応じた練習等を行っています。県選手権、国スポ予選会、県駅伝等をインクルーシブスポーツとして障害のない選手たちと共に出場しながら、パラスポーツとしてジャパンパラ陸上競技大会、日本パラ陸上競技選手権大会、日本ID陸所競技選手権大会他に出場しています。



写真1 いしかわ総合スポーツセンターにて集合写真

■ 活動の経緯・体制

1991年に石川県内の養護学校を卒業した人達を中心に「春風クラブ」という名で陸上競技のクラブチームを結成しました。1995年日本初の知的障害者を中心として構成する団体として日本陸上競技連盟に団体登録し、一般の選手に混じって県選手権大会や県駅伝大会に参加するようになりました。近年は障害の種類や軽重を問わず、視覚障害者、聴覚障害者や身体障害者（脳性麻痺、脊髄損傷他）も参加しています。2008年からは総合型地域スポーツクラブのNPO法人かなざわ総合スポーツクラブに加入し、協働で活動しています。

■ 活動の工夫・成果

毎回40名弱の障害を有する選手たちの専門的な練習を把握、管理、指導ができる有資格指導者を確保するために総合型クラブへ参入し、指導体制に万全を期しています。さらに財政や、広報などの面も、組織的な対応が可能となり、十数人の日本代表選手を輩出した一方で障害の有無、年齢、性別を問わないダイバーシティ的な活動も行えるようになりました。



写真2 ジャパンパラ陸上競技大会に参加

NPO法人ブレイヴ・ドルフィンス福井 障がい者水泳教室


 功労者

■ 団体名・氏名

NPO法人ブレイヴ・ドルフィンス

■ URL

<http://brave-dolphins.com>

■ 基本データ

継続年数	19年間
主な連携先	しあわせ福井スポーツ協会
団体の規模等	28名

対象	身体障害、知的障害
----	-----------

活動分野	学習	文化芸術	スポーツ	情報保障	普及啓発	その他
------	----	------	------	------	------	-----

活動の概要

NPO法人ブレイヴ・ドルフィンス福井の活動目的は、障がい者が水泳というスポーツ活動を通じて、心身の健康増進および機能回復を図り、障がい者の社会参加を促進することにあります。活動は、毎週5日間の頻度で2時間程度の練習を熱心に行っています。選手は、身体、知的、精神など、障がい特性や程度は幅広く対象としており、日々、競技力向上に励んでいます。

■ 活動内容

現在、選手・指導者を合わせて約30名が在籍しており、参加者のレベルに応じた練習メニューを設定し指導を行っています。「心身の健康増進と健康回復」「福祉の向上」「障がい者の社会参加」「すべての人が健やかに暮らせる地域社会づくり」の4つを目的に活動しており、一人ひとりがチャレンジ精神を持てるよう、段階に応じたきめ細かい指導を行っています。昨年度の活動日数は、週5日間の通常練習や県外遠征などを含め、約260日間となっており、障がい者の日々の生活の質の向上に繋がっています。

また、県外の大会に積極的に参加するなど、県内外問わず精力的に活動しています。一人でも多くの選手が県外の大きな大会に参加できるように配慮しています。こうした取り組みは、選手自身の自信や自己肯定感の向上に繋がり、障がい者の心身両面に渡る成長へのきっかけとなっています。選手一人ひとりの目標に応じ、障がい者の障がい特性に配慮したきめ細かい継続的な指導を行っています。



写真1 日々の練習風景

■ 活動の経緯・体制

代表理事である鴨田氏は障がい者がチャレンジできる環境の形成に貢献したいという強い志のもと、2005年にブレイヴの立ち上げました。現在では、障がい者が自己実現できるよう、適切な支援と機会を提供することをモットーとし日々の活動に取り組んでいます。活動を通じて、障がいの有無に関わらず、すべての人に平等な機会が与えられる社会を実現する一助となるよう障がい者とともに歩みを進めています。

■ 活動の工夫・成果

現在では、所属選手が日本代表に選出されるなど活躍の場を広げています。国際大会において世界記録や日本記録を樹立するなど、パラスポーツにおける競技力向上に大きな成果を挙げています。

また、県内開催の競泳大会では、所属選手が健常者の大会に参加するなどインクルーシブ社会の実現に向けて精力的に活動を続けており、障がいの有無を超えてスポーツを通じた交流促進が図られています。



写真2 全国大会で活躍の選手

ソフトボールで未知の世界へ！ All Together Now!!



■ 団体名・氏名

ビッグドルフィンズ

■ 基本データ

継続年数	33年間
主な連携先	あわら市ソフトボール協会 日本知的障がい者ソフトボール連盟等
団体の規模等	20名

対象	知的障害
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

ビッグドルフィンズは、1991年に設立し、知的障がい者を対象としたソフトボールチームとして33年間活動を続けています。毎週日曜日の練習を欠かすことなく地道に取り組みを続け、全国大会優勝を目標に努力を重ねています。また、ソフトボールを通じて、障がい者の余暇活動の充実や障がい者同士のコミュニティー創出も目指しています。

■ 活動内容

現在、選手・指導者等を合わせて、約20名が在籍しており、10代から50代まで世代を超えて、ソフトボールの練習に打ち込んでいます。週1回の定期練習だけでなく、他県との交流試合に積極的に参加し、地域を超えて障がい者同士の交流を深めています。1991年設立当初は、ボールを追いかけて捕ることすらできず、ゼロからのスタートでしたが、「一度でもいいから勝ちたい」という選手の声を受け、現在のようなチームを作り上げました。裾野の拡大を図るだけでなく、競技力向上にも重点的に取り組み、野球やソフトボールの専門家などのコーチ陣が全面的にバックアップし、全国大会への出場や上位入賞を果たす実力を備えています。健常者と練習試合を行うこともあり、障がいの有無を超えてスポーツを通じた交流促進に取り組んでいます。選手たちは余暇を充実して過ごすことで、日々の生活や仕事にも生き生きと取り組んでいます。



■ 活動の経緯・体制

大学で障がい児教育を学んでいた猪股氏（現監督）は、障がい者は余暇を室内で過ごすことが多いことに気付く、屋外で思いきり体を動かせるソフトボールのチームを作ることで、余暇活動を充実させられるのではと考えました。ビッグドルフィンズの設立の他「養護学校交流スポーツ大会」「日本知的障がい者ソフトボール連盟」の設立にも尽力し、知的障がい者が楽しんで全力でプレーできる環境整備を進めました。

■ 活動の工夫・成果

2018年に開催された「福井しあわせ元気大会」では、福井県代表として参加、団体競技では県勢初の準優勝に輝きました。また「福井しあわせ元気大会」に向けて、国体（健常者）の成年代表チームや少年代表チームらと合同練習を行い、健常者と障がい者の交流促進を押し進めました。他には「ウイングカップ」を年2回、計55回開催しており、県内外から毎回約120名の選手を集める大会となっています。



大学を拠点にしたインクルーシブな地域づくり


功労者

■ 団体名・氏名

都留文科大学地域交流研究センター
地域インクルーシブ教育分野

■ URL

<https://www.tsuru.ac.jp/site/tiikikouryuukennkyuusennta/>

■ 基本データ

継続年数	10年間
主な連携先	障害福祉事業所、スポーツ団体等
団体の規模等	約60名

対象 知的障害、精神障害、身体障害、重複障害

活動分野 学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

地域インクルーシブ教育分野は、大学と地域をつなぐさまざまな活動と研究に取り組むための拠点として都留文科大学内に設置されている地域交流研究センターの共生教育研究部門の1つの分野です。地域の特別なニーズのある人たち（及びご家族）への教育・心理的支援とインクルーシブな地域づくりを推進することを念頭に置いて活動しています。

■ 活動内容

1. クロスボーダープロジェクト（クロボ）

地域の特別なニーズのある人たち（幼児～社会人）の週末の居場所づくりの活動として、スポーツ活動、アート活動、音楽活動、総合活動、環境学習活動等を実施しています。大学学期中の5～7月と10～12月、月1回土曜日10:00～15:00に開催しています。

2. キャリアデザインワーク

発達障害や軽度知的障害等の地域の特別なニーズのある中・高生や若者の将来イメージ形成に寄与する「思春期キャリア支援プログラム」として実施しています。大学学期中の5～7月と10月は月1回土曜日13:00～15:00に開催し、職場体験実習を行う11月のみ月2回（土・日の2日連続）10:00～15:00に開催しています。

両活動とも、学内の学生や教職員、地域の市民・団体と協働することを強く意識して取り組んできていて、今や、富士東部地域の地域教育ネットワークの重要な一角を担うに至っています。



写真1 クロスボーダープロジェクトのお昼休み

■ 活動の経緯・体制

富士東部地域の発達障害の子を持つ親の会「ぶどうの会」から大学の方に送られた一通の手紙（ニーズの声）に回答する形で、2014年にクロスボーダープロジェクトが立ち上がりました。そして、2015年には、そのグループ別活動の1つとしてキャリアデザインワークが立ち上がりました。そして2017年にキャリアデザインワークがクロスボーダープロジェクトから独立し、以後は2つの活動を並立させてそれぞれ運営しています。

■ 活動の工夫・成果

道具や環境の視覚化・構造化、すなわち教育のユニバーサルデザインを念頭に置いて活動内容を工夫しています。さらに、「だれもが参加できるインクルーシブな活動を」という観点から、例えば、スポーツ活動ではポッチャやフロアホッケーなどのパラスポーツ競技を取り入れています。退会者が少ないことから少しずつ参加者の年齢層が上がってきていて、18歳以上の参加者が半数以上を占めるようになってきています。



写真2 キャリアデザインワークの職場体験

動作法月例会の継続で普及



■ 団体名・氏名

愛知教育大学動作法月例訓練会

■ 基本データ

継続年数	51年間
主な連携先	愛知心理療育親の会
団体の規模等	70名

対象	肢体不自由、知的障害
----	------------

活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他
------	----------------------------

活動の概要

発達支援技法である動作法による発達支援活動（訓練会）を毎月1回実施しています。活動の参加自体が障害者のライフワークであるとともに、動作法で安定した座位や立位姿勢など日常生活動作を維持、向上することが外出の機会創出にも繋がります。また、保護者同士の交流や学びの場として、また、ボランティア学生の専門性向上や動作法の普及にも繋がっています。

■ 活動内容

動作法の訓練会は、肢体不自由者が主な対象であり、ボランティア学生がマンツーマンで子どもを担当し動作法による実践を行います。それを大学教員などベテラン指導者が実地指導しています。対象の肢体不自由者にとっては、身体の拘縮（硬さ）の緩和や、より良い姿勢の獲得など、日常生活に大きく関わる大切な取り組みであり、日常生活を支えていくための生涯にわたる心身に関する取り組みとも言えます。活動の参加自体が楽しみの一つとなり、継続により安定した日常生活動作を確保することが、外出の機会創出にも繋がっています。

また、保護者にとっても、同じ障害のある子どもを持つ親同士が集い、互いに学び合いのできる貴重な場ともなっています。



写真1

訓練風景

■ 活動の経緯・体制

愛知教育大学名誉教授の池田勝昭氏により、1973年に活動が開始され以来、毎月、愛知教育大学で動作法の訓練会を行っています。

愛知教育大学ボランティア学生（20名）が支援対象者（20名）を担当し実践を行い、大学教員などの指導者（10名）がそれらの指導にあたる体制をとっています。活動に参加する保護者（20名）は「愛知心理療育親の会」という名称の会を形成しています。

■ 活動の工夫・成果

支援者は、常に障害者と言葉を交え実践を進め、セッション終了後は保護者とも、取組内容や本人の様子について情報を共有するよう努めています。

ボランティア学生は卒業後に特別支援学校等の自立活動において動作法を通じた経験を活かしながら、教育現場で実践にあたり、動作法の普及に繋がっています。



写真2

集団活動

視覚障がいがある人に向けた音訳活動

功労者

■ 団体名・氏名

音訳ボランティア「安城ひびきの会」

■ URL

<http://hibikinokai.web.fc2.com/>

■ 基本データ

継続年数	43年間
主な連携先	(福) 安城市社会福祉協議会
団体の規模等	28名

対象	視覚障害
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

音訳とは、視覚障がいがある人の目の代わりに文字を読むことです。活動において「心にひびく音訳」をモットーに、正確なアクセントで分かりやすく伝えられるよう、アクセント辞典や広辞苑等の辞書を用いて確認したり、勉強会を定期的で開催したりと常に自己研鑽に努めています。

■ 活動内容

市内在住の視覚障がいのある人のために、市広報紙をはじめ、防災マニュアルやごみの出し方などの生活情報冊子や、週刊誌などの雑誌類、一般図書などを音訳したものをCDに録音し、希望者に無料で郵送しています。また行政や議会などからの依頼により、広報紙音訳CDを提出したり、選挙公報の音訳にも携わっています。定期音訳の制作数は年間70件近くあり、約670枚のCDを発送しています。市内福祉センターで月1回、図書館で月2回対面音訳を実施しています。毎月1回、会員の情報共有・活動状況確認等のために定例会を実施しています。

引き続き、音声表現、処理、発声に関する技術を学び、地域で活躍できる音訳指導者の養成に努めていきたいと思っています。

相互の活動状況が分かるよう、近隣市会員との交流会を行うなど連携を強めていきたいです。



写真1

音訳中の様子

■ 活動の経緯・体制

団体の主となる3つの活動は、①昭和56年から市広報の朗読（月1回）開始 ②平成5年から録音図書作成（年間約15タイトル）開始 ③平成11年から対面音訳開始（毎月1回、平成29年からは月3回）です。

定例会の開催や、市ボランティア連絡協議会への加盟及び会の活動参加、会員の資質向上のために東海音訳学習会（名古屋市）に毎月参加し勉強を重ね、会と会員のスキルアップに努めています。

■ 活動の工夫・成果

安城市身体障害者福祉協会視覚部の行事に参加し交流をしたり、視覚障がい者支援関係団体と情報交換会を開催するなど、当事者への理解を深める機会を持つとともに、視覚障がい者を支援する団体同士のつながりも大切にしています。また、東海音訳学習会ではマンガの読み方、インターネットの利用の仕方など新たな対応方法を学ぶなど、利用者にとって聞きやすく、分かりやすい音訳とはを学ぶ機会を設けています。



写真2

対面音訳活動の様子

音楽を通して行うリハビリテーション

功労者

■ 団体名・氏名

長谷田 未佳

■ URL

<http://www.jmta.jp/>

■ 基本データ

継続年数	23年間
主な連携先	—
団体の規模等	—

対象 すべて

活動分野 学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

- 音楽療法士（有資格者）として、毎月、障害者の通所施設を定期訪問しています。
- 通所している障害者の興味・関心、障害特性に合わせて歌を歌ったり、楽器を演奏するなどのプログラムを実施し、障害者の心身を整えるリハビリテーションを行っています。

■ 活動内容

毎月1回、障害者の通所施設に通所している重度障害者・重度重複障害者向けに、音楽療法を行っています。

声を出したり喋ることが苦手な障害者には一緒に歌をうたってもらって日常生活の発語や声量を上げることに繋がったり、身体に障害がある障害者には楽器の演奏をしたり音楽に合わせて身体を動かしてもらって身体機能の維持・改善に繋がっています。また、パニックや多動など行動障害のある障害者にはその障害者に合わせたテンポやリズムで演奏を行って心身のリラックスを図るなど、障害者一人ひとりの障害特性等に合わせたプログラムを実施しています。

障害者・家族からの受講ニーズも高く、現在は毎月5名、年間延べ60名の障害者が音楽療法のプログラムに参加しています。



写真1 音楽療法の様子

■ 活動の経緯・体制

障害者通所施設の運営法人から、音楽好きな障害者のために音楽療法を実施してほしいとの依頼を受けて、施設での音楽療法を始めました。

障害特性等から音楽療法が合うと思われる障害者の家族には施設職員から音楽療法の受講を薦めており、多くの方が受講しています。

■ 活動の工夫・成果

受講する障害者の障害特性等にに合わせて、個人セッションまたはグループセッションを実施するように工夫しており、近年では障害特性等から一人ひとりにあったプログラムにするため、全て個人セッションで実施しています。音楽療法を受講している障害者はその活動時間をとても楽しみにしており、それが施設通所のモチベーションになっている方も多くいらっしゃいます。



写真2 個人セッションなので安心♪

小さな白球を通して障がい者スポーツの振興



■ 団体名・氏名

箕面市卓球協会

■ 基本データ

継続年数	23年間
主な連携先	箕面市卓球協会、大阪府立稲スポーツセンター
団体の規模等	協会員約1000人

対象

知的障害

活動分野 学習 文化芸術 **スポーツ** 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

2001年から大阪府立稲スポーツセンターで卓球教室やスキルアップ練習会に講師を派遣し、2003年から知的障がい者卓球大会「稲スポーツセンター杯」、2018年には第38回ジャパンオープンパラ卓球大会の運営に協力し、地域の障がい者スポーツの振興と競技力向上に貢献しています。

■ 活動内容

箕面市卓球協会は、2001年から大阪府立稲スポーツセンターで卓球教室やスキルアップ練習会に講師を派遣し、継続的な支援を行っています。年1回開催される稲スポーツセンター杯は、知的障がい者を対象にした卓球大会であり、大阪府のみならず奈良県や兵庫県などからの参加者もおられます。参加者の希望に沿って【競技の部】と【エンジョイの部】に分かれて参加できるように工夫しており、競技の部では全国大会レベルの選手の参加もあります。2003年から運営を担当し、2023年には第19回大会を迎えました。

また2018年には協会創立40周年記念行事として、箕面市で開催された第38回ジャパンオープンパラ卓球大会（全国大会）の運営に全面協力しました。

これらの活動を通じて、障がいのある方が卓球を楽しみながら仲間と交流し友好を深める機会を拡げて、社会とつながり易い環境を整える一助となるべく今後も活動内容の充実を目指しています。



写真1 稲スポーツセンター杯卓球大会での熱戦

■ 活動の経緯・体制

地域での障がい者卓球の普及を目的に、大阪府立稲スポーツセンターからの依頼を受けて、2001年より協会から教室への支援を開始し、卓球教室は年4回、スキルアップ練習会も年3～4回実施され、それぞれ5名の講師を派遣してきました。また、稲スポーツセンター杯（知的障がい者卓球大会）には15名程が大会の運営に携わっており、2023年には第19回大会を迎えました。

■ 活動の工夫・成果

参加者との意思疎通を図るため、卓球教室で個別対応をしつつ、柔軟な指導を行っています。大阪府障がい者スポーツ大会出場に向けた教室も開催し、稲スポーツセンター杯ではルールを緩和し、参加しやすい環境を整えています。大会は広く知られ、競技志向のかたから初心者のかたまで、府内外より多くの参加者が集まり、2023年には57名が参加しました。



写真2 開会あいさつ

豊岡市くすの木学校

功労者

■ 団体名・氏名

豊岡市くすの木学校運営委員会

■ 基本データ

継続年数	50年間
主な連携先	兵庫県豊岡市教育委員会社会教育課
団体の規模等	スタッフ9名、生徒31名

対象	身体障害、知的障害
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

身体・知的障害者等が、社会人として幅広い教養や実用的な知識・技能等を習得するとともに、広く市民との交流の場を通して相互理解を深め、ともに生きる喜びを創造する場を提供しています。

■ 活動内容

豊岡市くすの木学校は、身体・知的障害者等に対し、軽スポーツ体験や社会見学、社会体験活動等を通して、幅広い教養や実用的な知識・技術等を習得するとともに生きる喜びを創造するための機会を提供しています。

軽スポーツ体験では、パラスポーツ団体等と協力し、卓球バレーやボッチャなどの団体スポーツを中心に実施しています。団体スポーツの体験によって、周囲と協調して物事に取り組む力を育み、集団の中で活躍する喜びを感じていただいています。

社会見学では普段外出することが難しい生徒にとって、社会のマナーを学んだり経験を積んだりすることができる貴重な機会として喜ばれており、特に参加者が多い行事となっています。



写真1 クッキングの様子

■ 活動の経緯・体制

1974年から身体・知的障害者の生きがいづくりを目的に活動が始まり、50周年を迎えました。

現在は、運営スタッフ9名で会の企画等を行い、生徒の家族やボランティア等にご協力をいただきながら、年11回程度、主に豊岡地区コミュニティセンターや豊岡市民体育館などで活動しています。

■ 活動の工夫・成果

団体行動に不慣れな生徒が多いため、集団で行動することの重要性・楽しさを体験してもらうことを意識して企画しています。生徒それぞれ障害の種類・程度が異なるため、一人一人と積極的に関わりながら必要なサポートを判断できるように努めています。

10代～50代まで幅広い年代の男女が参加し、福祉作業所等の垣根を超えたつながりづくりに貢献しています。



写真2 いちご狩りの様子

障害のある方の居場所「ほっと十津川」

功労者

■ 団体名・氏名

社会福祉法人こだまの会

■ URL

<http://kodamanokai.com>

■ 基本データ

継続年数	30年間
主な連携先	障害福祉課、福祉事務所、住民保健課
団体の規模等	4名

対象 すべて

活動分野 **学習** 文化芸術 スポーツ 情報保障 **普及啓発** その他

活動の概要

障害のある方が気軽に立ち寄り、ふれあえる居場所を提供し、生活の困り事を相談できる居場所づくりを行っています。障害のある方や当事者家族を孤立化させない拠点づくりを行ってまいりました。令和6年度から週2回開催を3回開催に増やし、障害特性の違う方にも多くの機会を設けることで相互の支援体制強化を目指していきます。

■ 活動内容

「ほっと十津川」は障害があることで家から一歩出ることが困難な方にも新たなスタートをきっていただく場を提供できる機会を作っております。障害があるということで権利を行使することさえ困難な状況となる前に、社会生活力を向上していただきたいと思っております。ご利用者同士で生活技術・金銭管理・コミュニケーション・持病とのつきあい方等を相談や経験談を通じて自主的な活動につなげていきたいと思っております。近年は生産活動を通じて集中力や達成感を得られる取り組みにも力を入れています。パンの製造・販売をスタッフと共同で行い活動を通じて地域の方との交流を図っています。



写真1 足湯の清掃を行っております

■ 活動の経緯・体制

障害当事者等から「障害があっても、いろいろな方との交流や創作的、生産的活動などができる場はほしい」という願いのもと、当初は福祉事務所職員と2名で手探りで始まりました。現在は、福祉施設が実施主体となり支援員4名で1回あたりの参加者は8名程度で週3回活動しています。

■ 活動の工夫・成果

支援員はペアレントトレーニングや他市町村への視察及び視察にて交流いただいた講師を招き事業内研修にて活動の改善や地域課題を踏まえ新たな取り組みへの企画を検討しつつ、一人一人が主体的な暮らしとなるよう住民をはじめさまざまな関係機関等と連携することで福祉分野以外との活動の幅を広げています。



写真2 製造したパンを村役場にて販売しています

障害のあるこどもの乗馬体験及びふれあい体験活動

功労者

■ 団体名・氏名

東光 昭勇

■ 基本データ

継続年数	19年間
主な連携先	和歌山県教育委員会
団体の規模等	—

対象 知的障害、肢体不自由

活動分野 学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

19年間にわたって、障害のあるこどもの乗馬体験及びえさやり等の馬とのふれあい活動に取り組みました。また、乗馬用の馬の貸出とともに、こどもが安全に乗馬体験できるよう、当日に向けて、馬やポニーのコンディションを整え、乗馬やえさやり体験の運営及びこどもへの支援を行いました。

■ 活動内容

平成16年より、乗馬体験及びふれあい体験活動に協力し、学校近隣にある幼稚園の園庭を会場にし、こどもとその家族毎回25名程度の参加がある活動の準備や運営、こどもへの乗馬支援を行いました。

乗馬体験では障害のあるこどもたちが馬に慣れ、親しみがもてるように年間3～5回程度実施しました。馬とふれあったり、背中に乗ったりする本活動では、こどもたちが経験したことのない高い視野やスピード感を得ることができる機会となりました。

こどもたちが安全に乗馬活動に取り組めるよう、飼養管理等を行い、馬のコンディションの調整に細心の注意を払うとともに、乗馬中は他のボランティア等と協力して、見守りや直接こどもの手をとって乗馬支援を行ってきました。

19年間の活動をとおして、こどもたちから「楽しかった」等との感想があり、繰り返し参加を希望するこどもやその家族の姿が見られました。



写真1 いきいき交流教室の様子

■ 活動の経緯・体制

平成8年頃よりポニーや馬を使った乗馬体験に協力、平成12年6月より3年間、和歌山県アニマルセラピーモデル事業に協力し、県立はまゆう養護学校運動場を会場に、こどもたちが馬とふれあう活動に取り組みました。

平成16年に休業日の障害のあるこどもの居場所として「いきいき交流教室」が始まったのを機に、乗馬体験活動の準備・運営に協力し、その後、令和5年度に至る19年間継続して乗馬体験活動を支えてきました。

■ 活動の工夫・成果

県立南紀はまゆう支援学校（はまゆう支援学校・南紀支援学校が令和5年4月に統合）で実践した乗馬体験活動は、特別支援学校に通う障害のあるこどもたちが休業日を有意義に過ごすことのできる絶好の活動の機会となりました。また、本活動は、他地域での乗馬体験及びふれあい体験活動にも影響を与えました。



写真2 いきいき交流教室の様子

大学間連携による障害学生支援の普及・啓発活動

功労者

■ 団体名・氏名

大学コンソーシアム岡山
障がい学生支援委員会

■ 基本データ

継続年数	11年間
主な連携先	岡山県
団体の規模等	18名

対象 主に障害学生に関わる高等教育機関の教職員

活動分野 学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

大学コンソーシアム岡山に障がい学生支援委員会が設置されています。その委員（岡山県内全大学の障害学生支援担当者）が連携し、県内大学に進学・在籍する障害学生が、在籍校で適切な合理的配慮を受けられるよう、大学教職員への普及・啓発活動を行ったり、支援者同士で知識やスキルの向上を目指した情報交換会等を行っています。

■ 活動内容

【普及・啓発活動】

毎年、障害学生支援に関わる様々なトピックを取り上げ、障害学生支援研修会を開催しています。例年、主に高等教育機関の教職員を中心に、対面開催においては約100名、オンライン開催においては350名～400名程度が参加しています。

また、岡山県の障害を有する高校生や保護者、高校教職員等に役立つよう、毎年、県内全18大学の障害学生支援に関する窓口情報をまとめ、配布・掲載（岡山県のHP）をしています。

【情報交換による知識・スキルの向上】

年に2～3回、全委員が集まり、障害学生支援に関する各校の近況報告や、最新の動向や知見の共有、事例検討等を行い、知識やスキルのアップデートを行っています。

また、各校が障害学生支援の現状や支援ノウハウを記入・更新できる情報共有サイトを作成し、他校の記入内容を参照しながら、自校の取組に役立てられるようにしています。



写真1 2024年度障害学生支援研修会の様子

■ 活動の経緯・体制

障害者差別解消法の施行を見据え、2013年度に障がい学生支援委員会を設置しました。最初は、普及・啓発活動として、障害学生支援研修会を開催することから始まりましたが、その後より直接的に障害学生への支援に資するよう、委員間で緊密に連携しながら支援ノウハウの共有や、困った事例に関する相談等を行っています。現在、県内の全18大学の各支援担当者が委員となり、活動を進めています。

■ 活動の工夫・成果

障害学生支援研修会では、障害を有する参加者の有無に関係なくノートテイク（PCテイク）を配置し、文字通訳を提供しています。2020年度以降は、研修会の様子を録画し、岡山県内の大学教職員に対して、後からでも動画視聴できるようにしています。

ここ数年は、障害学生支援に対する意識が高まり、支援体制（支援部署の設置や、支援者の配置等）を充実させる大学が増えてきている実感があります。



写真2 県内全18大学での情報交換会の様子

文字を声に！視覚障がい者に情報を！！

功労者

■ 団体名・氏名

あけぼの音訳グループ

■ 基本データ

継続年数	42年間
主な連携先	社会福祉協議会、特別支援学校
団体の規模等	7名

対象	視覚障害
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

視覚障がい者の音訳ボランティアとして、市広報、市議会だより、市社会福祉協議会だより、ごみ収集カレンダーを音訳しています。また、音訳技術を生かして、特別支援学校の児童生徒を対象に絵本などの読み聞かせを実施しており、視覚障がい者に限らず、障がい者への情報保障の支援活動の場を広げています。

■ 活動内容

あけぼの音訳グループは、広島県大竹市において、地域で唯一の音訳ボランティア団体として活動しており、現在、視覚障がい者の要望の多い、市広報（毎月発行）、市議会だより（年4回発行）、市社会福祉協議会だより（隔月発行）、ごみ収集カレンダーの内容を読み上げて録音し、市内の利用者に郵送しています。また、依頼に応じた音訳活動や、令和4年からは、音訳技術と視覚障がい者との交流経験を生かして、特別支援学校の児童生徒を対象に、絵本などの読み聞かせ活動を定期的に継続して実施しており、視覚障がい者に限らず、障がい者への支援活動の場を広げています。

音訳ボランティアは「必要としている人がいる限り続けたい」という思いで継続し、昭和57年以降、40年以上にわたり、視覚障がい者への情報保障の支援活動を続けています。

今後も、音訳活動を継続しながら、視覚障がい者への支援活動に限らず、必要とされる場があれば、更に活動を広げていきたいと考えています。



写真1 会員の集合写真

■ 活動の経緯・体制

昭和57年に、点字に習熟していない中途失明者の要望を受けて発足しました。

現在、大竹市民の会員7名で、視覚障がい者への情報保障の支援活動を行っています。

団体内で勉強会を隔週で実施したり、各種研修会に参加したりして、音訳技術の研鑽に熱心に取り組んでいます。また、市社会福祉協議会の行事にも参加して、音訳ボランティアの周知啓発にも取り組んでいます。

■ 活動の工夫・成果

利用者と意見交換を実施し、音訳に反映させる努力をしています。「ゆっくり」「はっきり」「大きな」声で音訳することを非常に重要なポイントとして常に意識し、勉強会で確認しながら、温かみのある音訳を届けています。また、音訳には広報紙ごとにそれぞれ2日程度の時間がかかり、8月には三つの広報紙の発刊が重なりますが、会員で分担して音訳し、3日以内に完成させるなど、利用者に早く届けることを意識しています。



写真2 音訳活動の様子

「誰もが乗れる」ハンザヨットを通して 体験会の開催、アジア初のワールド大会の招致等

功労者

■ 団体名・氏名

公益財団法人 広島県セーリング連盟

■ URL

<https://www.jsaf.or.jp/hiroshima/>

■ 基本データ

継続年数	17年間
主な連携先	市内特別支援学校、心身障害者福祉センター、障害福祉事業所等
団体の規模等	150名

対象 すべて

活動分野 学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

重度障害の方でも帆走できる「ハンザヨット」について、平成19年に全国でいち早く普及活動を始めました。毎月の練習会や体験会の実施、毎年の県内大会の開催等を通じて、障害の有無にかかわらず、ハンザヨットに親しみスポーツを楽しむ機会を創出しています。アジア初の国際大会の広島招致など、活動は国際交流まで広がり、共生社会を目指す姿を世界に発信しています。

■ 活動内容

ハンザヨットは、子供、高齢者、障害者など、誰でも安全に簡単に乗れるよう、転倒防止等の工夫がされた小型ヨットです。広島県セーリング連盟は、広島港に所在する観音マリナーを拠点として、ハンザヨットの普及活動に尽力しています。

現在、障害のある方もない方も一緒に、練習会を月3回程度実施しています。また、体験会を月1回実施し、特別支援学校の生徒や福祉施設入所の方などが参加しています。さらに、県内大会のひろしまピース・カップを毎年開催しています。

ハンザヨットの活動を通じて、障害のある方が何度も練習することで技術を身に付け、大会に参加できるようになり、また、仲間との交流機会や居場所、生きがいそのものに繋がっています。

活動は国際交流まで広がり、平成30年にハンザヨットの国際大会の広島招致、令和4年に2つの国際大会の広島同時開催をアジアで初めて実現し、世界中から障害のある方もない方も集まり、ハンザヨットを通じてスポーツを心から楽しみ、共生社会を目指す姿を世界に発信しています。



写真1 練習風景（出艇前）

■ 活動の経緯・体制

平成19年7月に、重度の障害のある人でもセーリングを楽しみ、競技に参加することができることを目的として活動を開始しました。

その後、多くの企業・団体のご支援のもと、ハンザヨット70艇を保有する日本一のハンザの拠点となっています。

現在、約50名のメンバーが活動、運営の支援を行っています。

■ 活動の工夫・成果

障害のある方のご家族やヘルパーの方々も含め、密に連絡できる体制を作り、お互いを思いやる温かな関係を築いて、安全に無理のないように活動を実施しています。ハード面もバリアフリー化を進め、障害のある方も参加しやすい環境を整備しています。

ハンザヨットの運営を通じて、障害の有無にかかわらずスポーツを心から楽しみ共生社会を目指す取組が、海外からも「広島モデル」と評され模範とされています。



写真2 2024 ひろしまピースカップ

FIDバスケットボール競技の周知・普及と強化をとおして 共生社会の実現へ



■ 団体名・氏名

山口県 F I Dバスケットボール連盟

■ URL

<https://blog.goo.ne.jp/yfidbb>

■ 基本データ

継続年数	20年間
主な連携先	スポーツ支援団体・特別支援学校等
団体の規模等	213名

対象	知的障害
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

F I Dバスケットボール大会を開催するとともに、県外で開かれる F I Dバスケットボール大会への参加、選手派遣を行っています。また、バスケットボール交流会等を通して、F I Dバスケットボール競技の周知・普及、強化並びに選手数の拡大に取り組んでいます。

■ 活動内容

山口県 F I Dバスケットボール連盟の組織立ち上げ当初から、障害者の体力の維持・増進、交流・親睦を目的とした F I Dバスケットボール交流会を開催し、県内 F I Dバスケットボール競技への参加者の増加、普及に関する活動に取り組んでいます。

生徒が卒業後も生きがいを持ち、明るく豊かな生活を送ることができる共生社会の実現に向けた取組の一環として、近年では特別支援学校 F I Dバスケットボール交流会を開催し、F I Dバスケットボール競技の更なる周知・普及を進めています。

令和6年度特別支援学校 F I Dバスケットボール交流会においては、県内特別支援学校6校38名、中学校5校28名（特別支援学級の生徒を中心とする）と、過去最多の参加者があり、今後も交流会等を通して F I Dバスケットボール競技の普及、強化に取り組んでいきます。



写真1 令和6年度全国障害者スポーツ大会中国四国ブロック予選会の様子

■ 活動の経緯・体制

2004年、山口県 F I Dバスケットボール連盟を設立しました。山口県バスケットボール協会に加入したことで、各大会を円滑に運営することが可能となり、競技人口も増えてきました。

現在、登録チーム11チーム、選手154名、チームスタッフ30名、役員29名が県内各地で盛んに活動に取り組んでいます。

■ 活動の工夫・成果

様々な活動をホームページ（ブログ）で情報発信しています。選手への指導やコミュニケーションを図る際には、視覚的支援（作戦ボードやホワイトボードの活用）、理解しやすい表現の工夫など、各選手の障害特性を考慮し、合理的配慮に努めています。選手から出された質問や練習の振り返りを SNS や練習ノートを活用して、個別にも対応しています。



写真2 第19回山口県FIDバスケットボール交流大会の様子

パラスポーツの普及促進 ～共生社会の実現に向けて～


 功労者

■ 団体名・氏名

加藤 幸代

■ 基本データ

継続年数	33年間
主な連携先	徳島県パラスポーツ協会等
団体の規模等	—

対象 すべて

活動分野 学習 文化芸術 **スポーツ** 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

平成3年4月より、身体障害者の相談員としての活動を始め、33年の長きにわたり、障害者の支援業務、パラスポーツの普及促進に取り組んでいます。県内において各種スポーツ体験、スポーツ教室、講習会等を企画・運営し、パラスポーツの普及と振興に寄与しています。

■ 活動内容

平成3年4月より、身体障害者の相談員として勤務を始め、徳島県パラスポーツ協会の設立と運営に大きく貢献しています。

また、ボランティア団体である「徳島県障がい者スポーツ指導者協議会」に設立当初から事務局として、協議会の運営や指導員の派遣調整等を行うとともに、協議会の中心的な役割を担い、パラスポーツの指導者の育成に貢献しています。

ご自身も徳島県パラスポーツ協会人材バンク（パラスポーツスタッフ）に登録して、パラスポーツイベント等へ積極的に参加しています。



写真1 サウンドテーブルテニス大会

■ 活動の経緯・体制

平成5年、徳島県で開催した「全国障害者スポーツ大会」に役員として参加以来、平成29年まで、徳島県選手団に帯同し、パラスポーツの普及に貢献しています。また、平成6年から現在まで、日本パラスポーツ協会公認「パラスポーツ指導員」の資格を取得し、パラスポーツの普及・啓発、団体競技やスポーツクラブの育成、地域におけるパラスポーツの気運醸成に尽力しています。

■ 活動の工夫・成果

視覚障害者のサウンドテーブルテニス競技では、競技審判だけではなく、参加者への声掛け、ガイドを積極的に行う等、障害の特性を理解し、「活動の場」の提供、情報発信を行っています。

障害の有無、年齢に関係なく、誰もがスポーツを楽しむ場の提供を行い、共生社会の実現に向けて取り組んでいます。



写真2 フロアカーリング実技指導

子どもたちと共に学ぶ「ムーブメント教室」

功労者

■ 団体名・氏名

徳島感覚運動指導研究会
「ムーブメント教室」

■ URL

<https://www.facebook.com/profile.php?id=100059190501034>

■ 基本データ

継続年数	39年間
主な連携先	特別支援学校、小学校、大学、児童福祉施設等
団体の規模等	30名

対象	知的障害、発達障害
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

39年にわたり、パラシュート等を使った遊びを通じて、コミュニケーション力や社会性の育成を中心に、障害のある幼児・児童の発達支援と教育相談を行っています。また、参加者と関わるスタッフが研修会等に参加し、専門性向上や後継者育成にも力を入れています。

■ 活動内容

月1回1時間半程度の活動を行う「ムーブメント教室」では、①音楽に合わせた走行②道具を使った運動③読み聞かせ④パラシュート、のように活動を固定化することで、参加者が見通しを持ってより自主的・自発的に活動できるよう、工夫しています。活動後に実施している家族を中心とした教育相談では、日々の子育てや就学の悩みを抱えている方も多く、活動後に聞き取りや情報を共有することで長期的できめ細やかな支援を行い、共生社会の一層の促進を図っています。

スタッフは、教員、保育士等、特別支援教育に興味のある方を中心に、この教室への参加を募っており、現在30名が携わっています。情報や支援方法を共有するためのミーティングを行ったり、県外の講習会に参加したりすることで専門性の向上を図っています。

パラシュート等を使った遊びを通じて、障害のある方のコミュニケーション力獲得や社会性育成を主眼に据え活動を行っています。



写真1 パラシュートを使った活動の様子

■ 活動の経緯・体制

幼少期から生涯にわたり、実りある生活を送る基盤を培う支援をしたいと、教員や児童福祉施設の教職員が中心となり発足しました。

現在30名のスタッフが所属しており、月1回、県内の特別支援学校、小学校、幼稚園から幼児・児童が集い、参加者同士の楽しい遊びを通して、自主性、自発性を重視した笑顔あふれる活動を行っています。

■ 活動の工夫・成果

参加者に対しては、興味関心のある道具の使用や環境を整えることで、自分の力を発揮できる機会を提供しています。また、成就感や自尊感情を高めることができるよう、スタッフ全員で支援の工夫を共有し活動しています。当教室で学んだスタッフが、障害者施設や学校等において、パラシュート等を使った活動を行うことで支援者の専門性向上や後継者育成に貢献しています。



写真2 ビーンズバックを使った活動の様子

生きがいに寄り添う陸上競技指導 ～生涯スポーツから競技スポーツまで～

功労者

■ 団体名・氏名

塩田 友亮

■ 基本データ

継続年数	20年間
主な連携先	特別支援学校
団体の規模等	所属メンバー約40名

対象	知的障害
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

「香川県知的障がい者生涯スポーツクラブ」等の活動を通して、知的障害児者が生涯にわたってスポーツ活動に参加する機会を提供するとともに、競技力の向上をめざした専門的な陸上競技指導を行うことで、国内外の大会で活躍する選手を育成しています。また、現在は、障害のあるなしに関わらず、ともに参加や活動するインクルーシブなスポーツ活動に取り組み始めています。

■ 活動内容

2004年に「香川県知的障がい者生涯スポーツクラブ」で陸上指導を始めてから、知的障害児者のスポーツ活動に20年間携わってきました。クラブでは、現在も活動の計画や運営、競技指導等、様々な面から選手をサポートしています。

これまで、本クラブをきっかけに発足した「香川県障害者スポーツ協会」等の県内障害者スポーツ団体の組織づくりや運営にも参画し、県内での活動の場を広げてきました。さらに、2014年から日本知的障がい者陸上競技連盟の強化スタッフとして、全国の知的障害のある選手の競技力の育成にも携わってきました。2016年には同連盟強化委員長を拝命し、東京パラリンピック選手団の一員として選手の世界での活躍をサポートしました。

知的障害のある人が、スポーツに親しむことで豊かな人生を送ってほしい、世界で活躍することで社会のポジティブな理解を促進したいと願い活動してきました。日本の知的障害児者のスポーツ活動普及の一助になればうれしく思います。

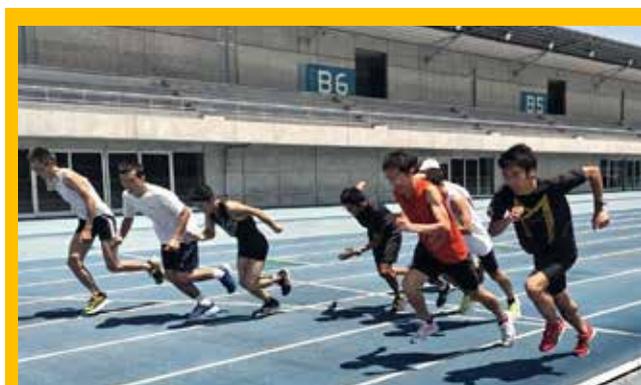


写真1 練習の様子

■ 活動の経緯・体制

特別支援学校の保健体育科教員として、「スポーツ活動は生きがいに繋がる」と感じる中、先輩教員からの誘い受け、「香川県知的障がい者生涯スポーツクラブ」の活動に参加し始めました。クラブには小学生から40歳代までの約40名が所属し、週3回県内の陸上競技場で練習をしています。指導者は特別支援学校教員を中心に4～5名おり、希望選手には専門的な競技指導を行い、活躍の場として国内外の大会への橋渡しをしています。

■ 活動の工夫・成果

指導では、スポーツに親しむことを重視し、それぞれの目的に合った参加を保障しています。また、自主性を重んじ、選手の考えを尊重しながら活動を進めています。継続して活動を楽しむ選手が増える中、国内外の知的障害者の陸上大会で金メダルを獲得する選手も出てきました。最近では、障害の有無に関わらず、他クラブの競技者とも一緒に活動することが増えました。インクルーシブな活動へと発展しています。



写真2 国際大会での本クラブ選手の活躍

学びと交流を大切によりよい音訳を （諫早コスモス音声訳の会）



■ 団体名・氏名

諫早コスモス音声訳の会

■ URL

<https://isahava-shakyo.jp/wp-content/uploads/2024/04/539242106c76556357cc51b5fcbfcc9e.pdf>

■ 基本データ

継続年数	36年間
主な連携先	諫早市立諫早図書館
団体の規模等	34名

対象	視覚障害
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

視覚に障害のある方の自立と社会参加の手助けを図るため

◇図書及び広報誌等の録音製作…諫早図書館の蔵書として納め、視覚障害や読書困難者に貸出音訳や、要望に応じ、対面朗読を行います。

◇視覚障害者との交流…諫早市視覚障害者協会の総会等参加、見学旅行、新年会、交流会開催

■ 活動内容

◇視覚に障害のある方の自立と社会参加の手助けを図ることを目的とし、録音図書の製作や、視覚障害者との交流を行っています。

・録音図書は国立国会図書館に提供しており、みなサーチを通じて全国で利用可能

※音声D A I S Y製作図書449作品

※7年間で71,478回利用

・諫早市の広報誌、社会福祉協議会だより、燃えないゴミ収集日程、市議会だより、身体障害者福祉協会便り、選挙公報の音訳・発送など

・諫早図書館の蔵書として納め、読書が困難な方にも貸し出されています。

◇対面朗読

・一般図書の他、専門書や機器の取扱説明書の音訳など、プライベートサービスにも対応。

◇毎月発行する「コスモスだより」に、完成した録音図書を、推薦文を添えて紹介し、利用者への貸出促進に努めています。



写真1 録音作業の様子

■ 活動の経緯・体制

◇昭和63(1988)年1月 「諫早コスモス朗読奉仕会」として15名で発足

◇平成9(1997)年 「諫早コスモス音声訳の会」と改称
会員数34名(男1女33)

・広報班(14名)

・コスモスだより班(12名)

・市議会だより班など(8名)

■ 活動の工夫・成果

◇視覚障害者との交流

諫早市視覚障害者協会の総会、研修会、新年会、及び市視障協会会員との交流会に参加したり、リスナーの方々との交流会を開催するなど、直接触れ合い、意見交換をとおして、製作物をより良いものにしていきます。

◇音訳の読み方や録音技術の習得のため、毎月の勉強会や各種研修会に参加し、技術のレベルアップを目指しています。



写真2 視覚障害者協会と県立図書館見学

声で届ける情報～あなたの光になると信じて～

功労者

■ 団体名・氏名

朗読サークルあらお

■ URL

https://www.instagram.com/roudoku_arao1984

■ 基本データ

継続年数	40年間
主な連携先	荒尾市社会福祉協議会、荒尾市立図書館等
団体の規模等	21名

対象	視覚障害
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

視覚障害者の方への情報提供を目的に、ボランティアでの朗読音訳活動に取り組んできました。当初は会員12名による市の広報紙の音訳作成のみでしたが、現在は21名の会員で、市の広報紙のみならず、地元新聞や施設情報誌、雑誌の音訳CD等を作成し、利用者への発送を行っています。利用者との情報交換の機会をもちながら、40年にわたって活動を続けてきました。

■ 活動内容

視覚に障害のある方への情報提供や読書の楽しみを届けるために、市や市議会、市社会福祉協議会が発行する広報紙や地元新聞、文化施設情報紙などの音訳CDを作成し、発送しています。録音図書も作成し、荒尾市立図書館の蔵書としています。

また、病院などの施設を訪問し、朗読ミニサロンや対面朗読を実施しています。最近、市の福祉イベントで手話サークルとのコラボパフォーマンスを行ったり、更生保護事業での朗読会にも取り組んだりするようになりました。

朗読技術の向上のために、毎週の勉強会やプロの講師による定期的な講習会なども実施しています。また、音訳図書利用者の方との交流会を開催し、利用される方の声を直接うかがったり、情報収集や意見交換を行ったりしながら、利用者目線に立った取組を進めています。



写真1 音訳作業の様子

■ 活動の経緯・体制

ボランティアで行う朗読音訳活動サークルとして、1984年に発足し、視覚障害者への情報提供に取り組んできました。現在は、40～80歳代のメンバー21名の会員で活動しており、広報紙や地元新聞は毎月、施設情報誌や雑誌は隔月で音訳CDを作成し、発送しています。録音図書も毎年度作成し、荒尾市立図書館の蔵書としています。今後の継続を見据え、毎年新入会員を募集しながら活動を続けています。

■ 活動の工夫・成果

勉強会を毎週開催し、NHK日本語センターの通信添削や講習会、プロ講師によるオンラインレッスンをとおして技術の向上に励んでいます。また、音訳図書利用者との交流により利用者のニーズに合った取組を行うように努めています。令和6年度から荒尾市立図書館が全国インターネット図書館「サピエ図書館」に登録したことから、更なる制作物の利用に期待しています。



写真2 市立図書館にズラリと並んだ録音図書

ピアサポート事業を活用した余暇活動支援

功労者

■ 団体名・氏名

宇佐市自立支援協議会

■ URL

<http://seiryu-kai.gonna.jp/>

■ 基本データ

継続年数	15年間
主な連携先	宇佐市福祉課
団体の規模等	106名

対象	すべて
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

宇佐市自立支援協議会は様々な委託事業を活用して、2006年（平成18年度）より、以下6つの障がいがある方の余暇活動支援及び地域における自立支援を実施しています。

- ①居場所づくり（フリースペースそよかぜ）
- ②教養講座（ピアサポート教室）
- ③普及啓発イベント（宇佐市民集会、ピアサポート・フェスティバル）
- ④移動支援（かけはし号）
- ⑤芸術文化活動（アトリエぐう）
- ⑥一人暮らし体験事業

■ 活動内容

（※数値はすべて令和5年度）

- ①「フリースペースそよかぜ」開館：月～土
仲間と一緒に卓球や将棋、おしゃべりを楽しめる常設の憩いの場。障がい当事者をピアスタッフとして2名配置。延べ5,595名参加。
- ②ピアサポート教室：絵手紙・音楽・クッキングを3施設で計17回実施、延べ150名参加。
- ③・ピアサポート・フェスティバル：隔年開催
→ 成果発表や事業所制作物品の販売を通じて交流
・宇佐市民集会：隔年開催
→ 実践体験発表や講演を通じて地域での共生社会の在り方を考える
- ④かけはし号：移動支援およびツアー等余暇活動を企画・実施 464名利用
- ⑤芸術文化支援事業「アトリエぐう」：美術・造形のワークショップ（年3回：延べ38名参加）イベント（展覧会）
- ⑥一人暮らし体験事業：自立生活を目指す方を対象に短期間の一人暮らし体験を支援：3名利用



写真1 ピアサポート・フェスティバルでの発表の様子

■ 活動の経緯・体制

2006年に「フリースペースそよかぜ」を開設し、翌年には障がい当事者への余暇アンケート結果に基づいて将棋・絵手紙・音楽・料理教室を始めた。これらは、相談支援事業所が相談支援事業の委託の一部として運営しており、講師・協力者と受講者が、お互い元気をもらい楽しむ場として交流を図ってきた。2019年前には「アトリエぐう」も開始するとともに、各取組や障がい理解の普及・啓発を目的としたイベントも実施している。

■ 活動の工夫・成果

- ・障がい当事者の方が得意なことや頑張っていることを活かして講師を務める教室もあり、サービスの受け手から担い手としての役割がうまれている。
- ・広く参加者を募ることで、障がい種別や事業所をこえた出会いを生み、絆を深める取組となっている。
- ・市の福祉課と連携して「ピアサポートフェスティバル」や「市民集会」で活動の成果を発表し、障がい理解の促進や啓発を図っている。



写真2 クッキングクラブでの調理の様子

チャレンジ教室

功労者

■ 団体名・氏名

社会福祉法人みずほ厚生センター
さぽーとセンター風車

■ URL

<https://www.mizuhokousei.com/>

■ 基本データ

継続年数	15年間
主な連携先	臼杵市役所、臼杵市障害者交流センターすくらむ
団体の規模等	254名

対象

すべて

活動分野

学習

文化芸術

スポーツ

情報保障

普及啓発

その他

活動の概要

「チャレンジ教室」は障がいの有無に関わらず参加できる余暇活動の一環として①演歌ビクス②絵手紙③楽しい絵手紙④革工芸⑤おんがく倶楽部⑥調理⑦遊び体育という、7つの教室を行っています。地域の中での皆さんの社会参加の機会や安心して過ごせる場所を提供しています。

■ 活動内容

臼杵市内在住の18歳以上（高校生不可）を対象に、毎月7種の教室を開催しています。

①「演歌ビクス」では、懐かしの昭和歌謡や演歌に合わせてエアロビクスを元気いっぱい行っています。

②③「絵手紙」「楽しい絵手紙」では、葉書に季節折々の植物など彩り、オリジナルの言葉を添えて大切な方や自身に向けて描いています。

④「革工芸」は、木槌で繊細に時間をかけ模様を打ち込み、使えば使う程に変化していく作品を作る、楽しみな時間となっています。

⑤「おんがく倶楽部」では、リズムに合わせて体を動かし皆で音楽を奏で、コラボレーションや楽器演奏体験も出来ます♪

⑥「調理」は、簡単な調理の手順や食べる喜びを知り、心も体も健康になる笑顔あふれるひとときです。

⑦「遊び体育」では遊びながら、ストレッチや体の使い方を楽しく体感出来ます。



写真1

「楽しい絵手紙」の様子

■ 活動の経緯・体制

以前、市内にある公民館教室に障がいのある方が参加された際、居場所がないように感じたことを相談員に伝えて下さった事がきっかけとなり、教室を提供することで「自分の意志で選択して余暇を楽しむ」機会になると考え、相談員のご縁ある各講師に教室を依頼しました。障がいのある方が社会に出るきっかけの一つとして『チャレンジ教室』は機能しています。現在は講師6名、事務局7名、参加登録者数125名で活動しています。

■ 活動の工夫・成果

講師は日頃から障がいのある方に様々な立場（スタッフ・協力者・支援者）で関わっている方やご自身も障がいがあり、それまで培った技術を活かしてピア（仲間）的な関わりもする方もいます。これまでの最大参加者は1,605名（H30年度）で、コロナ禍の昨年度も人数制限や飛沫パネル等の感染対策を徹底した上で実施し、参加者は960名（うち、障がいがある方529名）でした。学校卒業後に友人と会える貴重な機会となっています。



写真2

「革工芸」の様子

聴覚障害者と共に暮らしやすい社会をめざして

功労者

■ 団体名・氏名

宮崎手話サークル「いもっこ」

■ 基本データ

継続年数	53年間
主な連携先	行政（保健・福祉部局）、社会教育関係団体等
団体の規模等	83名

対象	聴覚障害					
活動分野	学習	文化芸術	スポーツ	情報保障	普及啓発	その他

活動の概要

ろう協会との交流・手話の普及活動を通じて、通訳活動の輪をひろげ、手話の理解を深め技術をみがき聴覚障害者との親睦を深めています。また、一般参加者を対象にした「はばたく手話教室」、サークル会員を対象にした勉強会、ろうあ者と一般市民の接点を作るための行事（ビアガーデン、パークゴルフなど）の企画・運営しています。

■ 活動内容

1971年10月18日、聴覚障害者に関わる者や手話学習者が中心となり、宮崎市で聴覚障害者に対する理解を深めながら手話通訳の輪を広げること目的として活動を開始しました。

聴覚障害者が地域社会で安心して生活するために、防災についての講演会や心肺蘇生に関する研修会など定期的に開催しています。

また、一般市民に向けて手話講習会の運営・講師担当を行い、手話奉仕員や手話通訳者を育成しています。一般市民に向けての手話教室は、約30年にわたり開催しており、広く市民に手話の普及を行い一般市民の聴覚障害者に対する理解が深まり、地域にいる聴覚障害者との交流に繋がっています。この事により聴覚障害に関わるイベント開催では、一般市民の協力を得られています。



写真1 はばたく手話教室「防災学習」

■ 活動の経緯・体制

聴覚障害者と共に住み慣れた地域で安心して生活を送ることができるよう、防災や心肺蘇生に関する研修会を定期的に開催し、聴覚障害者の防災意識向上と被災した場合に対処法を学習しています。また、福祉まつりへ参加し、一般市民への手話の普及にも取り組んでいます。

■ 活動の工夫・成果

先天性聴覚障害者だけでなく、中途失聴者で手話学習を始める方もいます。その方は、手話講座やはばたく手話教室に通いながら手話を身に付けていきます。宮崎手話サークル「いもっこ」は、できる限り対等な情報保障を行いながら学習を進めています。



写真2 クリスマス交流会

バレーボールを通じた知的障害者への支援

功労者

■ 団体名・氏名

MIYAZAKI☆PHOENIXERS バレーボールクラブ
(みやざきSUPER☆PHOENIX VC(男)&宮崎たいよう♡ふえにつくすVC(女))

■ 基本データ

継続年数	28年間
主な連携先	高等学校、特別支援学校、企業等
団体の規模等	18名
対象	知的障害
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

1996年のチーム設立以来、男子チームが日曜日13時より都城市内の障がい者スポーツ専用施設等、女子チームは土曜日13時より延岡市内の支援学校体育館等で活動している。年間を通してバレーボールを主に活動しており、全国障害者スポーツ大会九州ブロック予選会や西日本地区の大会に参加している。冬季は都城市内の高等学校野球部とマラソンやバレーボールの交流会を実施している。

■ 活動内容

クラブの目標として、企業就労継続を目指した他者との協調性やコミュニケーションスキル、社会的なマナーの習得を掲げ、チーム全体で取り組んでいます。

冬季は、マラソンの練習を行っており、都城市内の県立高等学校野球部と一緒に、5kmのマラソンとバレーボールをとおした交流会を実施し、インクルーシブ社会の啓発も行っています。

男子チームは、過去5回の全国障害者スポーツ大会へ出場し、高知大会で準優勝しました。女子チームは、設立2年目で全国障害者スポーツ大会へ出場し、千葉大会では、男女アベック出場しました。

競技に関する個々の障害に応じた技術指導に加え、就労に関する相談の対応など、選手や家族に寄り添った組織運営を行っています。

総監督は、西日本知的障害者バレーボール連盟理事長として、県内外の他競技団体へ助言等を行うなど、バレーボール、スポーツを通じた障がい者支援を行っています。



写真1 全国障害者スポーツ大会ブロック予選

■ 活動の経緯・体制

平成7年、宮崎県立都城養護学校でバレーボールクラブを設立し、平成8年に部活動として開始しました。全国的大会に出場後、現在の男子社会人チームへ移行しました。女子チームは、平成20年に県立延岡南養護学校で創設し、後に女子社会人チームとなりました。

メンバーの入れ替わりはありますが、募集チラシや宮崎県障スポ協の催事などにより、現在は男女各9名ずつ在籍しています。

■ 活動の工夫・成果

- ・技能習得が理解できるよう視覚的な支援の実施
- ・スモールステップの反復による基礎・基本技能習得
- ・コンフリクトマネジメントを用いた運動技能向上を構築
- ・運動経営学に基づいた男子選手、女子選手それぞれに適した練習プログラムの提供
- ・本人と保護者に対する生涯スポーツの啓発や栄養学、ボディーメンテナンス等に関する情報提供



写真2 高校生とのマラソン・バレー交流会

手話サークル活動

功労者

■ 団体名・氏名

鹿児島手話サークル太陽

■ URL

<https://r.goope.jp/shuwataiyo/>

■ 基本データ

継続年数	52年間
主な連携先	鹿児島市聴覚障害者協会等
団体の規模等	210名

対象	すべて
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

聴覚障害者の社会参加の促進及びいつでもどこでも手話で会話できる社会を目指して、聴覚障害者と健聴者が集い、交流を通じた手話の学び合いを行っています。また、鹿児島市聴覚障害者協会等と連携を図りながら、イベント等におけるボランティア活動にも積極的に参加し、地域社会に聴覚障害者についての正しい理解と認識を呼び掛けるなどの活動に取り組んでいます。

■ 活動内容

毎週2回、月曜日(14時～15時30分)と木曜日(19時～20時30分)に行う学習会では、健聴者と聴覚障害者が、手話を使った会話やゲーム等を通して交流を深めています。また、鹿児島市や聴覚障害者協会と連携し、おはら祭や障害者体育大会等のイベントにおける手話通訳ボランティアや、生涯学習講座への講師派遣なども行っています。さらに、毎年開催される鹿児島市の福祉交流フェアでは、バリアフリーの社会をイメージし、会場内どこでも手話で話ができるよう、サークル会員約50名を、舞台やバザー、展示箇所等に配置するとともに、手話講座ブースを設置し、大人はもちろん、小中学生向けの学習機会を提供しています。そして、聴覚障害者団体と共に防災学習やレクリエーションなどの合同研修会も開催し、聴覚障害者の生活と権利を守るための活動も行っています。

その他、手話の普及啓発のため、毎月1回機関誌を発行したり、ホームページやSNSで情報を発信したりしています。



写真1 学習会（グループ交流）の様子

■ 活動の経緯・体制

太陽国体で手話ボランティアとして参加したことを機に、聴覚障害者の社会参加の促進、手話学習ニーズへの対応や地域交流を目的に設立しました。現在、10代から80代までの幅広い年代の健聴者194人、聴覚障害者16人が加入しています。

また、鹿児島市中心身障害者総合福祉センター内に事務局を置き、地域の福祉団体や教育機関、行政と連携した持続可能な体制づくりを行っています。

■ 活動の工夫・成果

学習会では、小グループに分かれてテーマに沿った手話での交流を行い、「声を出さずに手で話す」「わからないことはすぐ質問」等の約束をし、みんなが手話を使って話すことで、活動がより充実しています。

また、イベント等で手話講座ブース設置したり、学校への出前講座を実施したりすることにより、若者の学習者をはじめ、幅広い年代の加入者が年々増えています。



写真2 福祉フェアでの手話講座ブース

自分をひらき、他者とともにある場 「オープンアトリエ」と「生涯学習・アカデミア」



■ 団体名・氏名

特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン

■ URL

東京 <https://ableart.org/>

東北 <https://soup.ableart.org/>

■ 基本データ

継続年数	30年間
主な連携先	行政、福祉施設、企業、NPO/市民団体等
団体の規模等	会員70人/団体
対象	すべて
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

障害のある人をはじめ、生きにくさを抱えている人たちと共に、アートを通して、だれもが豊かに生きることのできる社会の実現に向けて活動しています。障害のある人とアートに関わる「相談支援」「人材育成」「ネットワークづくり」「創造・発表・販売」「公募・助成」「鑑賞・アクセス」「調査研究」等です。

■ 活動内容

30年間つづけてきた「オープンアトリエ」と、注目株「生涯学習・アカデミア」を紹介します。

「アトリエポレポレ」(1995年~/東京)、「エイブルアート芸大」(2011年~/東京)、「アトリエつくるて」(2018年~/仙台)の3つのオープンアトリエは、主に造形活動を通して、自らを自由に表現する場です。障害の有無にかかわらず集い描き、時間と空間を共有する営みのなかで、いつの間にか、なくてはならない居場所として定着、運営されてきました。

「スープノアカデミア」(2021年~/仙台)は、学習者自らが学びのテーマを考え、発案し、ともにつくるプロセスを大切にしている生涯学習プログラムです。取り組んだテーマには、インターネットリテラシー、災害とマイタイムライン、選挙のナゾトキ、恋愛と人間関係、おカネってなんだ、お酒とのつきあい方、アンガーマネジメント、働き方はいろいろ、などがあります。3年間で24回、総勢406人がこの活動に参加しています。



写真1 アカデミアの様子（お酒とのつきあい方）

■ 活動の経緯・体制

活動の核心には、いつも障害のある人とその支援者等の「こう、ありたい」という願いがあります。それを他者と共有し、「今ないものはみんなで作ろう！」の精神で活動してきました。オープンアトリエや生涯学習事業は、参加者15-20名、ファシリテータ1名、ボランティア1-5名、事務局スタッフ1-2名の構成です。それぞれ月1-2回程度、地域の市民センターや防災センター、お寺の講堂などで活動しています。

■ 活動の工夫・成果

たくさんの仲間や担い手を地域社会につくることをめざして、以下のような取り組みを実践しています。

- ・実践知をウェブサイトやフォーラムなどで情報公開
- ・行政の福祉・文化・教育・経済などの多彩な分野を横断的につなぐ場をつくり、障害のある当事者やNPOの草の根活動を情報共有
- ・生涯学習の活動では、宮城県や仙台市のコンソーシアム設立に働きかけ、設立後は委員として発言・活動



写真2 アトリエつくるての様子

目の代わりとなることを目指して

功労者

■ 団体名・氏名

岡山市立図書館朗読奉仕の会

■ 基本データ

継続年数	47年間
主な連携先	岡山市立図書館
団体の規模等	67名

対象	視覚障害等
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

活字での読書が困難な方へ向けて、録音図書製作や対面朗読を行っています。録音図書は図書の他、市の広報紙や市議会だよりなど暮らしに必要な情報も音訳しています。

■ 活動内容

視覚障害の方へ図書館資料を音声で届けるサービスを目的に結成されました。年に30タイトル以上の図書を音訳し、岡山市立図書館を通じて利用者に届けています。

岡山市の広報紙（月1回）や市議会だより（年4～5回）を中心に、パンフレットなどの行政情報の音訳も行っています。

昭和59年から開始した対面朗読では、平成27年にスカイプ利用を始めるなど時代に沿ったサービスを心掛けています。

自主勉協会と技術向上のための講座をそれぞれ月一回実施しています。年2回会誌を発行することで、勉強会などに参加できない会員へも情報提供を続けています。

利用者の方からは「この人の音訳は全部聞きたい」とお声をいただいたり、対面朗読を利用する方との交流を楽しんでいます。



写真1

勉強会の様子

■ 活動の経緯・体制

昭和52年の発足以降、録音図書製作や対面朗読など岡山市立図書館の障害者サービスの一端を担ってきました。隔年で養成講座を行い、修了者が新規会員となり会員数を減らすことなく継続してきました。平成14年からデイジーの製作を始め、これまで700タイトル以上製作しています。県の点訳・音訳のネットワークに参加し、講習の受講や情報交換にも努めています。

■ 活動の工夫・成果

製作した録音図書は岡山市立図書館に所蔵され、利用者に貸出されています。国立国会図書館のデータ送信サービスにも登録されているため、全国の視覚障害の方へ声を届けています。昭和58年からは岡山市から広報紙の音訳依頼を受け、今日までテープとデイジーを製作しています。広報紙以外にも市から音訳依頼があり、声での情報提供に貢献しています。



写真2

校正の様子

つながる・きわめる・はたらきかける！
宮城県内の手話通訳者の養成・手話普及活動を先導



■ 団体名・氏名

宮澤 典子

■ URL

<https://www.ztk-miyagi.com/>

■ 基本データ

継続年数	36年間
主な連携先	宮城県手話通訳問題研究会、宮城県聴覚障害者協会 等
団体の規模等	約140名

対象	聴覚障害
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

宮城県内の手話通訳者や手話学習者に学習・研究の機会を提供し、手話通訳等に関する集团的資質向上に貢献しています。現在も、手話通訳に関する世界的組織、全国的組織および東北地区の役員を兼任し、世界や全国の情報を宮城県に還元し、宮城県の取組を全国に発信する役割を担っています。

■ 活動内容

宮城県内の手話通訳者や手話学習者の学習機会と情報交換の場を確保するため「宮城県手話通訳問題研究会」を立ち上げ、宮城県内の聴覚障害者団体と共に、手話通訳制度の改善・向上に向けて取り組みました。また、手話通訳派遣事業を運営する「みやぎ通訳派遣センター」の設立に取り組みました。東日本大震災発災時には、被災した聴覚障害者や手話通訳者等および手話学習者等を支援するための東日本大震災聴覚障害者救援宮城本部の中心を担い、全国に広がる人脈を生かし、被災地へ派遣された手話通訳者を取りまとめる役割を担いました。

現在は、宮城県手話通訳問題研究会会長、一般社団法人全国手話通訳問題研究会理事(副会長)、一般社団法人宮城県聴覚障害者福祉会理事(事務局長)のほか、世界手話通訳者協会アジア地域代表理事として活動しています。

著書は「Noricoda波乱万丈」(クリエイツかもがわ)、「ろう通訳ってなに？」(生活書院)など。



写真1 手話通訳レッスンDVD[®]より

■ 活動の経緯・体制

聴覚障害者福祉制度が十分に整備されていない時代から、聴覚障害者から手話を学び、聴覚障害当事者の主体性を支え、共に聴覚障害福祉の充実向上に取り組んできました。手話ができる人を増やす取組、手話通訳者を増やす取組、そして手話に関わる人たちの組織化を図りました。集団で学習研究することの重要性を訴え、手話通訳などの社会的認知にも努めています。

■ 活動の工夫・成果

宮城県手話通訳問題研究会において、聴覚障害者のくらしや手話通訳者の社会的地位向上にかかる諸課題を集団で考え、社会に訴え、社会を変革する意識と機会を保持してきました。また全国や世界の手話通訳界の情報を伝え、各種講座の講師を努め、手話通訳者のモデル像を示すことで、次世代を担う手話通訳者、活動者の育成に努めてきました。現在約140名の会員を擁する組織となりました。



写真2 宮城県手話通訳問題研究会の学習会

みんなの居場所 コミュcafé クチエカ

奨励活動

■ 団体名・氏名

特定非営利活動法人クチエカ

■ URL

<https://www.facebook.com/kucheka4.13/>

■ 基本データ

継続年数	8年間
主な連携先	社会福祉法人・社会教育関係団体等
団体の規模等	14名
対象	すべて
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

当初、障害者と東日本大震災津波の被災者支援を目的に設立されましたが、現在は、高齢者支援、児童支援まで活動の範囲を拡大し、また対象者を障害者等に限定せず、広く門戸を開いた活動を行っています。

■ 活動内容

クチエカとは、スワヒリ語で「kucheka」「笑うこと」「微笑み」を意味します。集まる人たちの笑顔があふれる、障がいのある人もそうでない人も集う「ボーダーレスな居場所・地域づくり」その実現を目指し活動しています。

「おはなしカフェ(フリースペース開放、創作活動)」「みんなでお出かけ(屋外での農業体験や散歩)」「みんなでごはん(独居の障害者や高齢者の孤食防止のため、栄養士の監修する季節のメニューを参加者で交流しながら食べる)」といった取組を行っていますが、参加者を障害者のみに限定せず、東日本大震災津波・平成28年台風第10号の被災者や、高齢者、児童にまで枠を拡げ、障害のある人もそうでない人も集う、ボーダーレスな居場所・地域づくりの実現を目指しています。

また、近年はこれらの活動に加え、高齢者支援や地域おこし協力隊による「子ども食堂」の運営などの児童支援も追加し、地域の要望に応え多岐に渡る活動を行っています。



写真1 おはなしカフェの様子 創作活動を盛り盛り

■ 活動の経緯・体制

社会福祉の増進を図るため、障害の有無に関わらず地域の誰もが心豊かな生活を送り、自己実現が出来る社会環境の充実を目的に、平成28年4月に設立しました。

・体制

14名(理事長1名、理事4名、監事1名、職員8名)

・2024年度9月末時点での参加者数(延べ人数)

おはなしカフェ8,982名、みんなでお出かけ828名、みんなでごはん474名

■ 活動の工夫・成果

屋外活動や独居の障害者や高齢者孤食防止のための取組の中で、障害の有無を問わない交流機会の提供について工夫し、充実させてきました。

各種活動の取組により、障害者に対する理解・啓発が進み、偏見や差別の解消につながりました。

また、障害者や高齢者の孤立、身体的・精神的な衰弱(フレイルなど)の防止にもつながりました。



写真2 みんなでごはんの様子

塩竈市杉村惇美術館の市民共働プログラム

奨励活動

■ 団体名・氏名

塩竈市杉村惇美術館

■ URL

<https://sugimurajun.shiomo.jp/>

■ 基本データ

継続年数	8年間
主な連携先	塩竈市杉村惇美術館、塩竈市生涯学習課
団体の規模等	28名

対象	すべて
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

杉村惇美術館では、誰でも参加可能な作品鑑賞、手軽な創作・表現活動体験、心身の機能維持やリハビリテーションにもつながる、独自性の高いワークショップの提供など、障害の有無に関わりなく、誰もが対等に文化芸術活動を楽しみ・創造する場をつくっています。そこには、社会福祉事業者や地域包括支援センターなど、活動の企画運営に多数の関係専門機関が関わっています。

■ 活動内容

年齢・性別・国籍そして障害の有無を問わず参加可能な作品鑑賞、手軽に創作・表現活動を体験でき心身の機能維持やリハビリテーションにもつながるワークショップの提供を行っています。さらには社会福祉事業者や地域包括支援センターなどの最前線の担い手・関係専門機関と連携を図り、手法の開発に努めています。

今後は、障害のある人々やその家族、地域社会全体に対して、包括的な理解と共感を促進するための啓発活動や教育プログラムを提供したいと考えています。デジタル工房FabLab SENDAI-FLATやFab Station Natoriの技術を活用するなど、個別のニーズに合わせた支援プランを提供し、障害者が自己の能力を最大限に発揮し、自己実現を図るための支援を強化するプログラムを実施していきたいです。



写真1 「Art for Well-being」の様子

■ 活動の経緯・体制

年齢・性別・国籍そして障害の有無を問わず、多様な人々が出会い、互いについて知り合う機会を創出しています。施設の特性を生かしながらネットワークの構築及び環境づくりに努めています。NPO法人エイブル・アート・ジャパンをはじめ、専門家や社会福祉事業者、学校教育との連携を図りながら取り組んでいます。

（連携先：NPO法人AAJ東北事務局、一般社団法人ファブリハ・ネットワーク、社会福祉法人仙萩の杜、生涯発達支援塾TANE、東北芸術工科大学、東北工業大学ほか）

■ 活動の工夫・成果

障害のある児童をもつ保護者や放課後デイサービスの保育士、学校教員などと共に、個性・特性を生かす環境づくりについて現状課題を共有しながら、理想的な場づくりに努めています。

現在では、生涯発達支援塾TANE・櫻井育子氏と共に、美術館が安心して活動できる場所と感じられるよう定期的な活動を行っており、また、公民館を併設している美術館の特性から、利用者の相互理解の促進と協働に努めています。



写真2 発散のじかんの様子

利用者とともに作り上げる生涯学習講座

「おらほの学び場」

奨励活動

■ 団体名・氏名

地域生活支援拠点 愛光園

■ URL

<https://ogachi-nagomi.net/>

■ 基本データ

継続年数	3年間
主な連携先	学校、行政、地元企業・団体等
団体の規模等	117名
対象	すべて
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

地域生活支援拠点「愛光園」（秋田県湯沢市）では、施設のもつ強みを生かしながら地域の多様な主体を巻き込むことで、利用者とともに作り上げる生涯学習講座「おらほの学び場」に取り組んでいます。行政や地元企業・団体と協力し、デジタル技術の学習会、防災フェスや交流会、カフェでの作品展示などを行い、地域に根ざした「生活者」たることを目指しています。

■ 活動内容

「おらほの学び場」は、地域生活支援拠点がつ生活支援・就労支援の機能を強みとして生かしつつ、地域の多様な主体を巻き込むことで、利用者とともに作り上げる新しいスタイルの生涯学習講座です。

現代社会に必要なデジタル技術を学ぶ講座、ユニバーサルキャンプ、防災フェスティバルや住民との交流イベントといった地域に根ざした活動、コミュニティカフェでのアート作品展示・販売などを行っており、SNSなどを活用して地域住民にも広く周知して参加を呼びかけています。

活動を通じて、障害がある人もない人も、地域で一緒に暮らすことに違和感を感じず、お互いに助け合い、学び合える関係づくりを目指しています。障害者＝支援を受ける人という固定観念にとらわれず、地域に根ざした「生活者」たることを目的に、将来にわたり地域で暮らしていくために時代に合った技術・知識の習得や、地域づくりへの参画に努めていきたいと考えています。



写真 1

ユニバーサルキャンプ

■ 活動の経緯・体制

施設では、従来から近隣住民を招いての夏まつりやクリーンアップなど地域との関係づくりを目的とした活動を行ってききましたが、秋田県からのモデル事業受託を契機に、生涯学習の要素を取り入れた「おらほの学び場」を開始して現在に至っています。

施設職員から選ばれた「地域共生推進委員会」の8名を中心に、様々な関係者が参加する連絡会議の意見も取り入れながら運営を行っています。

■ 活動の工夫・成果

活動を通じて地域住民と双方向の関係を築くことを強く意識しています。e-スポーツや防災フェスティバルのような障害の有無に関わらず誰でも関心をもって参加して協力し合える活動を企画し、楽しみながら交流が深まるように工夫しています。

障害当事者も能動的に活動に参加しており、デジタル技術の講座などでは、お互いに教え合い、助け合いながら活動する姿も見られるようになってきました。



写真 2

e-スポーツフェスタ

障害があってもあきらめないで 「障害者パソコン勉強会」


 奨励活動

■ 団体名・氏名

ありんこ

■ URL

<https://arinko138.sakura.ne.jp/>

■ 基本データ

継続年数	25年間
主な連携先	障害福祉課、高年福祉課、社会福祉協議会等
団体の規模等	53名

対象	すべて
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

障害が有ろうともICT機器を活用する事により「もっと自由に、もっと楽しく、もっと充実した生活」を送ることが可能です。趣味分野の情報を集めたり、孫や家族、友人とのEメールの交換を楽しんだり、また視覚障害の方が今まで読めなかった本がパソコンを使って読めるようになったりと、障害があっても仲間との交流を楽しみながら充実した生活を送れることを目指します。

■ 活動内容

私達の目的は、パソコンやタブレット（ICT機器）の学習を通じて、新しい仲間と出会い、ふれ合い、支え合える場所、いわば「心のオアシス」を作ることです。そしてそれら機器の活用により不自由さを減らし、便利で楽しい生活を実現して頂きたい。出来るだけ多くの方に、笑顔になって頂くのが願いです。更にはそれぞれが抱かれている「目標や夢実現」のお手伝いをしたいとの思いが有ります。その思いも少しずつ達成されています。例えば再就職を果たされた方、ご自分の生きた証として俳句集を発刊された方、ICTインストラクターやプロの画家になられた方、自分の住む街で同様のグループを立ち上げられた方達もおられます。人は独りでは生きられません。仲間がいてこそ、新たに生きる喜びや、目標や意欲が湧いて来るのではないのでしょうか。障害をお持ちの皆さん、あきらめないで、きっとあなたも出来ます。



写真1

勉強会風景

■ 活動の経緯・体制

平成11年（1999年）に一宮市に視覚障害者を対象にパソコン同好会として誕生しました。最初は目の不自由な方3名と支援者1名だけの小さなグループでしたが、それから25年が過ぎ、視覚、聴覚、肢体不自由、心的障害の方達や、支援者を含め、計50余名の大きなグループに育っています。勉強会は週3日支援者含め、年間延べ1,300名程の方が参加されています。

■ 活動の工夫・成果

『ありんこ』の勉強会は、講習会のような堅苦しいものではなく、会員同士が互いに教え合う形をとっています。技術支援や困りごとなどは、支援者が対応しています。パソコン・タブレット・スマホ等の勉強だけではなく、バス旅行、お花見会、誕生会、忘年会等々親睦事業や障害に関する情報交換なども活発に行なわれています。また、ありんこで学んだ方が地元へ帰って、ありんこと同じ勉強会を立ち上げています。



写真2 創立20周年記念パーティー集合写真

楽しみながら社会性を育むチャンゴ教室 （韓国伝統打楽器演奏サークル）


 奨励活動

■ 団体名・氏名

笑舞～東はりまチャンゴサークル

■ URL

http://www.instagram.com/higashi_harima_chango

■ 基本データ

継続年数	5年間
主な連携先	加古川市別府公民館
団体の規模等	25名

対象 知的障害、聴覚障害
活動分野 学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

2019年、余暇活動として、障害者とその家族で韓国伝統打楽器を楽しむサークルを設立。毎月3回、日曜日に講師による指導練習を行い、親子20人ほどが毎回参加しています。知的障害・聴覚障害、軽度から重度、小学生から30歳代までと参加層は幅広いです。地域のお祭りや講演など依頼が年々増え、演奏レベルも向上し、今年5月には念願の韓国で演奏交流ができました。

■ 活動内容

月3回、日曜日の午後に練習をしています。プンムルノリ（隊列を組んで演奏するもの）サンムルノリ（座って演奏するもの）を2時間みんなで練習し、楽器の片付けや会場の掃除なども障害者自ら行っています。楽譜がなく身振りで覚えるチャンゴは、重い知的障害があっても覚えやすいです。楽器を身につけて隊列をつくり演奏するスタイルは、じっとしていることが難しい人も親しむことができます。聴覚障害者は、振動で音を伝え、他のメンバーと一緒に練習しています。隊列を組み、互いの笑顔を見ながら演奏し、仲間と息を合わせることで協調性が自然と身についています。さらに、色々な会場で演奏を重ねることで、適応力が伸びています。保護者が参加し、他者の障害を理解することで、子どもたちとの関わりが深くなるとともに、子ども同士で助け合う姿が見られるようになっていきます。演奏に加えて講演の依頼もあり、チャンゴを通して障害者の啓発活動に繋がっています。今年度は、初の海外出演があり、韓国国会議員会館での演奏がネットニュースで配信され、国内外に活動が周知されました。



写真1

出演の様子

■ 活動の経緯・体制

はじめは既存のチャンゴサークルに参加していましたが、内容や速さについていけなかったり、保護者が周りに気を遣いすぎたりしたため、障害者だけのサークルを立ち上げました。太鼓やドラは、音が大きく練習場所の確保に苦労しましたが、地域の公民館が活動を理解してくださり、他の練習場所を紹介してくれるなど協力を得ています。

■ 活動の工夫・成果

自由にその人らしく参加してもらうため、希望する楽器はどんな楽器でも演奏することができるようにしています。保護者にも理解し協力してもらうために、一緒に演奏し参加することを基本としています。障害があるからと諦めず、熱心に指導する先生のおかげで上達していきます。演奏を通して障害者理解、異文化理解が進んでいるように感じます。



写真2

韓国での出演者と記念撮影

大隅地区 障がい児・者スポーツの集い

奨励活動

■ 団体名・氏名

パラスポおおすみ

■ 基本データ

継続年数	8年間
主な連携先	肝付町社会福祉協議会等
団体の規模等	20名
対象	すべて
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

老若男女問わず誰でも楽しめる「障害者スポーツ」や「アダプテッドスポーツ」を楽しむ集い「パラスポおおすみ」を開催しています。毎月第3土曜日を「パラスポの日」と定め、障害の有無や年齢に関係なく、フライングディスクやボッチャなどのパラスポーツを通して、誰でも気軽に楽しめる場をつくるために活動をしています。

■ 活動内容

フライングディスクやボッチャなどのパラスポーツを通して、障害の有無や年齢に関係なく、誰でも気軽に楽しめる活動を企画し、肝付町福祉会館やその周辺の広場を活用して取り組んでいます。令和2年からは、町外で出張パラスポーツを行うなど、活動を肝付町内から大隅地区に対象を広げ、パラスポーツに慣れ親しんでもらおうと様々な関係機関の協力をいただきながら、多くの参加者ととともに楽しんで活動を行っています。

出張パラスポーツやイベントでは、その地域でパラスポーツを普及していただくために、地域の関係者と連携を図りながら支援者指導者の育成も合わせて活性化を促しています。

また、活動がより充実したものになるように、支援者間で情報交換会を行い、大隅地区内の障害児・者及び家族の生活の質と福祉の向上を目指し、社会貢献活動等も行いながら、障害児・者のソーシャルスキルや社会的理解と環境改善の機運を高めることを意識し活動を行っています。



写真1 フライングディスクにチャレンジしている様子(肝付町福祉会館)

■ 活動の経緯・体制

平成28年に、肝付町社会福祉協議会が障害児・者スポレクを日常的に行える拠点として支援者育成を行い、ネットワーク化を図りながら各種スポレク体験会に取り組みました。令和2年から、大隅地区の恒常的活動拠点としての事業を導入し、「パラスポおおすみ」を立ち上げて活動を行っています。特に、毎月第3土曜日を「パラスポの日」と定め、現在まで活動を継続して取り組んでいます。

■ 活動の工夫・成果

様々な場所で、多種多様な話を聞けるのが「パラスポおおすみ」の魅力の一つです。参加される方々の意見を聞き、多少のルール変更をしながら誰でも楽しめる環境づくりを行っています。少しでも「やってみたい」と思うことがあれば「パラスポおおすみ」でサポートしていきますように心掛けています。

参加者は、楽しみながら様々な種目に挑戦できるので、参加者の活動の幅が広がってきています。



写真2 ハートフルチャレンジ(海チャレ)の様子

障がい者の乗馬を介した自己実現・障がい者乗馬の普及

奨励活動

■ 団体名・氏名

一般社団法人日本障がい者乗馬協会

■ URL

<https://jrad.jp/>

■ 基本データ

継続年数	29年間
主な連携先	日本バラスポーツ協会、日本中央競馬会、日本馬術連盟
団体の規模等	34団体

対象	すべて
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

馬を介した障がい者の自己実現に向けた活動支援を目的に、全国大会や国際大会の開催、各種資格発行、国際大会への選手派遣、障がい者乗馬の普及活動を実施。合わせてパラリンピックのNFとして強化活動、選手派遣を実施。多くの方に障がい者と馬の活動を知って貰う為、そして参加して貰う為、学校機関への普及活動を実施。

■ 活動内容

年齢制限・男女の区別を設けず、そして身体障がい者・知的障がい者を主な対象として2024年度は32回目となる全国障がい者馬術大会を開催。なかなか日々の活動において自己表現が出来る機会がない中、「全国」という広範囲を対象にスポーツという観点で具現化した活動を継続して実施。ジムカーナや馬場馬術経路等、障がい者の程度や種類によって幅広く参加出来る競技内容を設置。また、2000年のシドニーパラリンピック以降、全てのパラリンピックに日本のパラ馬術における統括団体として日本選手の輩出を実施。そのベースとして定期的なクラシフィケーションや資格発行試験、障がい者乗馬の学校機関を中心とした普及活動を実施。



写真1 2023年大会時の集合写真

■ 活動の経緯・体制

1993年に現在の全国障がい者馬術大会の前身となる第1目の大会を実施。また、パラ馬術においては2000年のシドニー大会から選手派遣を実施。2017年には日本国内で初めてパラ馬術大会を開催。2009年の一般社団化を行い、現在34団体の正会員団体と共に活動を推進。協会内にセラピー本部・パラ馬術強化本部を儲け、それぞれ活動を推進すると共に、相互リンクをさせ障がい者の馬を介した活動を包括的に推進。

■ 活動の工夫・成果

障がい者乗馬のスポーツという点を熟知したNFである団体という利点を活用し、単なる自己表現の場ではなく、平等性を担保しつつ参加者が満足できるルール等の整備を実施。また、障がい者の種類によって表彰を行う等の競技会実施要項を作成。合わせて障がい者が安心して参加できるように事前に挑戦するコースやルール等を公表する工夫を実施。



写真2 2022年実施の学校普及事業

全国

幅広い障がいの方ができる射撃競技

奨励活動

■ 団体名・氏名

特定非営利活動法人日本パラ射撃連盟

■ URL

<https://jpsf.com/>

■ 基本データ

継続年数	28年間
主な連携先	日本ライフル射撃協会
団体の規模等	普通会員93名、正会員12名

対象 肢体不自由、内部障害、知的障害等

活動分野 学習 文化芸術 **スポーツ** 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

パラリンピックを目指した国際的な選手強化事業、国内での競技会の開催を行っています。健常中央競技団体、行政等と連携して、競技の魅力を広く知っていただくための体験会を行っています。

■ 活動内容

主催競技会および健常中央競技団体との共催競技会を開催しています。競技会は、パラリンピックを目指す選手および国内で競技に取り組む選手に限らず、手軽に参加できるチーム射撃（チームライフル、チームピストル）の種目も設定し、より幅広い方が射撃スポーツに親しめる取り組みを続けています。

競技スポーツの機会を提供するとともに、レクリエーションスポーツとして射撃を経験できる場の提供にも取り組んでいます。

国際的にエアライフル競技として確立されている視覚障がい者射撃を、日本国内で場所を選ばず楽しめるチームライフルに応用し、普及活動を進めています。

近年では、東京都の特別支援学校活用事業、健常のライフル射撃中央競技団体である日本ライフル射撃協会との連携しての体験会、当連盟単独での体験会・教室を毎年数回行っています。



写真1 第36回全日本パラスポーツライフル射撃競技選手権大会での集合写真

■ 活動の経緯・体制

1981年に第1回千葉県身障者B R射撃大会を開催したことに始まり、障がい者の競技会と射撃競技に触れることができる機会の提供を行ってきました。現在は、毎年の全日本選手権と春季パラ射撃大会などの主催競技会を毎年行っています。

射撃競技を通して障がいのある方が社会参加する機会として、各関係機関と連携して体験会を開催しています。

■ 活動の工夫・成果

法令の規制がないチームライフルを活用して射撃競技の体験機会の提供を行っています。体験会で使用するチームライフルについては、体験者の障がいに合わせて、ライフルを保持するスタンドを用いたり、照準装置にモニターを使うなどして、障がいの軽い方から重い方まで幅広く射撃スポーツに参加できるよう工夫を加えています。



写真2

体験会の様子

文部科学省 Web サイトでは、
障害者の生涯学習の推進に関する情報を公開しています。
是非ご覧ください。

https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/index.htm



障害者の生涯学習

検索

